

京都大学

分野横断プラットフォーム構築事業
成果報告書

|| Hideo Saji ||

京都大学には、自由な発想に基づき異なる分野の研究者が議論をする「百家争鳴」の場が伝統的に備わっています。西田哲学や霊長類学など、世界に類を見ない新しい発想や学問を数多く生み出してきました。

しかし、近年、学術研究は多様化と蝸壺化が進んでいます。大学の研究者に社会から求められる役割も増えています。そのため、研究者自らが「百家争鳴」の場を作ることが難しくなりました。そこで、学術研究支援室は学際融合教育研究推進センターと協働で平成 25 年度より「百家争鳴プロジェクト」を立ち上げました。

本冊子でご紹介する「分野横断プラットフォーム構築事業」は、「百家争鳴プロジェクト」のコアとなる事業です。本学に、より多くの学際共同研究が芽吹くための土壌（プラットフォーム）を構築することを目的としています。これらの活動や成果が学外にも広がり、新しい学術研究のプラットフォームがさらに展開することを期待しています。



京都大学
学術研究支援室長
佐治英郎

|| Yoshimasa Nakamura ||

近年、大学の教育研究を取り巻く環境は大きく変化しており、萌芽的分野や潜在的に連携が可能な分野におけるボトムアップ型の研究およびさまざまな教育・人材育成プログラム等、部局を超えた連携・融合の必要性はますます高まっています。これに対応するため、京都大学では時限付の教育研究グループを「ユニット」と命名し、複数の部局による分野横断型の教育研究プロジェクトを実施してきました。そのユニットを創発、支援し、京都大学の成長点となっているのが平成 22 年 3 月 9 日に設置された京都大学学際融合教育研究推進センターです。当「百家争鳴」事業は、本学における分野越境を促す場面創出に大きく貢献するものであり、定量化困難な京都大学の縦横無尽な風土作りをミッションとする学際融合教育研究推進センターのミッションとよく合致します。学際センターとしても今後もさらに当事業の発展を支えていきます。



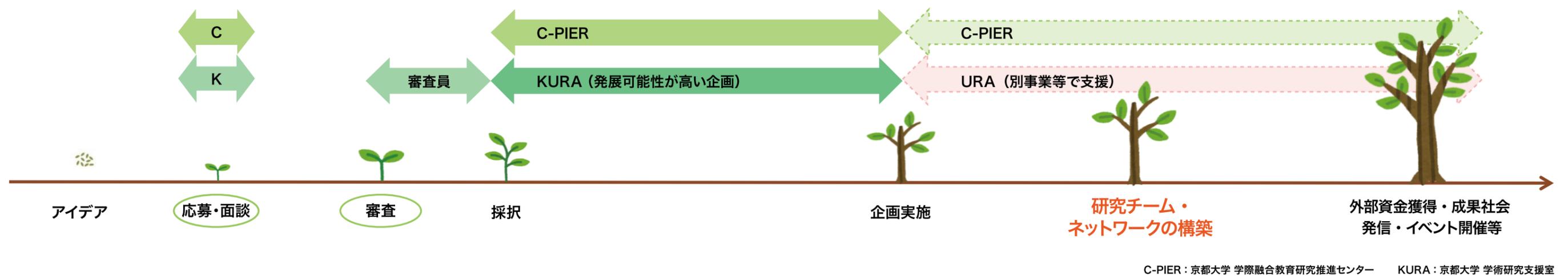
京都大学
学際融合教育研究推進センター長
中村佳正

分野横断プラットフォーム構築事業 概要

目的 より多くの学際研究が 芽吹くためのプラットフォームを構築する

対象	手段	効果
新たな学際（共同）研究の萌芽的アイデアがあり、研究プロジェクトの実現に向けて動き出そうとしている研究者（以下、企画者と称す）	ワークショップや研究会の開催支援、コンテンツ作成支援、各種助言、人の紹介などを通して、企画者と学内外の研究者、省庁、自治体、企業、NPO、市民等とがつながる場／機会／環境を醸成・拡充	分野横断型の多様な研究チームやネットワークの形成・学際力（多角的な視点・広い視野、異分野間のコミュニケーション力等）とPM力（運営ノウハウ、事務能力、意見をまとめ上げる等）をもった研究者の増加

事業体制 新たな学際研究のアイデアを、芽吹かせ、研究チーム・ネットワークを作るまでを支援



企画実施後の展開と成果・効果 (2017年3月時点)

- 論文：2件
- 学会発表：6件
- 書籍出版や記事掲載：5件
- 企画実施後も研究会・WSを続けているチームの割合：90%
- KYOTO オープンサイエンス勉強会として月1回で継続し、2017年2月19日に年次総会を兼ねて、「第二回オープンサイエンスワークショップ」を開催
- コアメンバーにより2015年9月に「萌える生物学」と銘打ったシンポジウムを実施。「ムシ vs. サカナ」の第2回を2017年8月に開催予定!
- 第2回目のワークショップに加え、ハブとなる勉強会が立ち上がり、関連するプロジェクトのいくつかはメディアでも取り上げられた。一例としては「金沢上空の雷雲は「天然の加速器」か!? 一宇宙物理学者が挑む、カミナリ雲の謎」(マイナビニュース) など
- 羊土社「実験医学」における連載「私の実験動物、個性派です!」に掲載
- BMB2015 (第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会) における公募シンポジウム「経験もお金も人脈も無い若手が自分の妄想を企画化するにはどうしたらいいのだろうか?」の開催
- ヤバ研 meets メディアワークショップの内容が共同通信にて配信された (ハフィントンポスト日本版 2014年03月04日)
- セクシュアリティに関する諸問題の研究会において京都新聞社やNHKの協力も得た
- 多領域から食物アレルギーを捉えなおした新たなアプローチに関する内容にて科研費獲得、および生化学会地区会でのポスター発表
- 共著で『歴史社会言語学入門』を出版
- 大学博物館等協議会 2014年度大会・第9回博物科学会 (ポスター発表)
- ウェブサイトでの成果発信、新しい共同研究の開始、クラウドファンディングでの資金獲得 (環境エンリッチメント実践型ワークショップについて)
- 異空間リトリート：協働知の再創造～レジリエンスについて、その後に続くワークショップや国際会議の開催
- 発達障害の子ども達への「あたたかい支援」についての研究会後、人脈が年単位で増えていき、今年度、学会において自主シンポジウムを開催
- 「PUSH プロジェクト (救命)」では、「一歩踏み出して、救命処置を行う要因、行えない要因」をテーマとした研究を行い、学会発表 (日本臨床救急医学会) を実施
- 赤松美和子、若松大祐 (編著) 『台湾を知るための60章』 (明石書店、2016年) を刊行

支援企画一覧（研究会・ワークショップ）

■→いわゆる文科系 ■→いわゆる理科系 ■→しいていうなら文科系と理科系の間

H 25 年度（20 件）

- 「誰かのためにやったほうがいいと頭ではわかっているが行動に移せない」について多視点で考えよう！
瓜生原葉子（学際融合教育研究推進センター政策のための科学ユニット・特定助教）
- **科学と芸術の交差点**
安達泰治（再生医科学研究所・教授）
- **今こそ考えよう！ 私たちと農業の関わり～学生のワタシにできること～**
大石和男（農学研究科・教授）
- **心理臨床の知・哲学の知からの創造的意味生成へのプロセス—暗在性（the implicit）との出会いを体験するワークショップ**
田中久美子（教育学研究科・研究員）
- **Talk Cafe ～これからの「入試」の話をしよう～**
中原有紀子（産官学連携本部（SACI）イノベーション・マネジメント・サイエンス研究部門・研究員）
- **Global Policy Initiative (GPI) 特別企画 異空間リトリート：協働知の再創造～レジリエンス（Resilience）から社会イノベーションへの可能性～**
清水美香（防災研究所・特定准教授）
- **不健康への誘惑：ゲーミングで生活習慣を考えよう**
江間有沙（白眉センター・特定助教）
- **第 1 回 研究者・メディア横断連携ワークショップ～研究者はメディアに出てコンテンツになるべき？～**
藤原幸一（情報学研究科システム科学専攻・助教）
- **モデル動物タイマン対決！「ハエ VS サカナ」**
飯田敦夫（再生医科学研究所・助教）
- **多領域から食物アレルギーを捉えなおし、新たなアプローチを開発する**
塩尻かおり（白眉センター・特定助教）
- **遺伝はどこから始めるの？京でしょ！プロジェクト 児童・学童に対する遺伝教育教材の開発**
和田敬仁（医学研究科医療倫理学・遺伝医療学分野・教授）
- **発達障害の子ども達への“あたたかい支援”とは～発達障害の特性と子どもの発達をどのように捉えて支援するか～**
正高信男（豊長研究所・教授）
- **若手再エネ実践者リレートーク大会—若手×再エネ×地域—**
諸富徹（経済学研究科・教授）
- **多言語主義と歴史言語学——言語を超えた歴史社会言語学研究**
家入葉子（文学研究科・教授）
- **文化都市形成のダイナミズム：プレスラウ、ドレスデン、ライブツィヒから考える**
小石かつら（白眉センター・特定助教）

- **（産学官公連携を目指した）宇治キャンパス分野横断交流会**
喜多山 篤（宇治 URA 室・職員）
- **宇宙の彼方でも伝わる文理融合コミュニケーションを目指して**
常見俊直（理学研究科・講師）
- **ソーシャルデザイナー（cocolo 域 プロデューサー）養成ワークショップ**
桐村豪文（学際融合教育研究推進センター
地域生存学総合実践研究ユニット・特定助教）
- **ドラえものの秘密道具の実現をまじめに検討してみませんか**
山本祐輔（学術研究支援室・URA）
- **研究者の未来とそれをとりまく社会について考える**
ワークショップ「研究者未来予想図をつくってみよう」
宮野公樹（学際融合教育研究推進センター・准教授）

H 26 年度（15 件）

- **抵抗と解放の身体—ブラジル伝統芸能「カポエイラ」による対話と実践**
アンドレア・フロレス・ウルシマ（地域研究統合情報センター・研究員）
- **海棲哺乳類の分布・資源・保全～ひれあしワークショップ～**
幸島司郎（野生動物研究センター・教授）
- **生きづらさ学～今を生きる私たちの生き方イノベーション～**
旗揚げワークショップ
小山真紀（工学研究科・医学研究科安寧の都市ユニット・特定准教授）
- **台湾理解を見直すためのワークショップ**
若松大祐（学際融合教育推進センター・アジア研究教育ユニット 研究員）
- **おにぎりを握って食べて「医食文科同源」を体感するワークショップ～**
「米」と「塩」から考える日本人的暮らし、過去・現在・未来～
福岡真悟（臨床研究総合センター・特定講師）
- **「匂いコミュニケーションメディア」の構築と社会環境の醸成をめざして**
小石かつら（白眉センター・特定助教）
- **人工知能技術が浸透する社会を考える**
江間有沙（白眉センター・特定助教）
- **ワークショップ「第一次世界大戦とアジア：国際秩序の変容とナショナリズム」**
奈良岡聡智（法学研究科・教授）
- **『くらしの学び庵』（孤立防止のための互助・自助強化プログラム開発プロジェクト）**
清家理（こころの未来研究センター・特定助教）
- **エネカフェ～自然エネルギーを仕事にする～**
諸富徹（経済学研究科・教授）

- **実践を通じた文理融合授業に関する研究**
常見俊直（理学研究科・講師）
- **国際結婚と子どもの社会包摂—愛・ケア・労働**
安里和晃（文学研究科・特定准教授）
- **比良おろしワークショップ**
古本淳一（生存圏研究所・助教）
- **占領期日本におけるパンパンをめぐる—ジェンダーの視点から平和について考えよう—**
茶園敏美（学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット・研究員）
- **学際研究の原理**
伊勢田哲治（文学研究科・准教授）

H 27 年度（15 件）

- **東アジアにおける叙述と歴史**
森岡優紀（人文科学研究所・研究員）
- **萌える生物学—不思議な生物 & 生命現象を調べ尽くす人々—**
飯田敦夫（再生医科学研究所・助教）
- **東西文化の多様と共存モデル—「東方キリスト教圏」を多角的に考える学際的試み—**
杉本淑彦（文学研究科・教授）
- **消滅危機言語復興研究のためのワークショップ**
山田真寛（学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット・特定助教）
- **飼育動物の栄養、行動、福祉を考える—環境エンリッチメント実践型ワークショップ—**
山梨裕美（野生動物研究センター・特定助教）
- **ANSHIN のデザインセミナー**
富田直秀（工学研究科・教授）
- **エネカフェ Vol.2 地域のエネルギーとコミュニティイノベーション**
諸富徹（経済学研究科・教授）
- **どう活かす？新しい研究のすすめ方 オープンサイエンス**
榎戸輝揚（白眉センター・特定准教授）
- **ドローンのフィールド科学活用研究会**
益田岳（地球環境学堂・特定研究員）
- **The Fly Room: ボトムアップ型の異分野交流の原点を学び、実践する**
阿形清和（理学研究科・教授）
- **In and around the Japanese garden: ～proposal for an intercultural and interdisciplinary dialogue～**
柴田昌三（農学研究科・教授）

- **京都大学の環境・サステナビリティを考える 100 人委員会**
浅利美鈴（環境科学センター・助教）
- **学際教育の原理：メタ科学の学際化に向けて**
菅原裕輝（文学研究科・非常勤講師）
- **「隙間」から人と社会の関係を再発見し、レジリエンスに繋ぐ**
清水美香（学際融合教育研究推進センター グローバル生存学大学院連携ユニット・特定准教授）
- **日系介護移民の社会包摂に関わる連続セミナー：何が包摂を阻むのか**
安里和晃（文学研究科・特定准教授）

H 28 年度（10 件）

- **Longing for Beauty, Exchanging Designs: Encounters in Aesthetic and Historical Approaches（憧れと交流が紡ぐ「伝統」の美 テキスタイルに迫る美学と歴史学のアプローチ）**
小石かつら（白眉センター・特定助教）
- **生物群横断系統地理ワークショップ**
岩崎貴也（生態学研究センター・特別研究員）
- **不便益システム研究会「心」・「技」・「体」：不便益システムの社会実装に向けたプラットフォーム構築**
川上浩司（学際融合教育研究推進センターデザイン学ユニット・特定教授）
- **フィールドから学ぶ栄養と医術—架橋する現代技術と伝統技術—**
西本希呼（白眉センター・特定助教）
- **内在性ウイルス様エレメント研究会**
牧野晶子（ウイルス・再生医科学研究所・特定助教）
- **京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会 キックオフ顔見世**
飯田敦夫（ウイルス・再生医科学研究所・助教）
- **デジタルアーカイブの再設計～資料の利用のために何をすべきか／何ができるか～**
元 ナミ（大学文書館・特定助教）
- **ヨーロッパ複合国家論の可能性—イギリス思想史研究との対話—**
竹澤祐丈（経済学研究科・准教授）
- **東南アジアとオセアニアをつなぐ：熱帯海域世界の政治史と経済活動**
佐久間香子（東南アジア地域研究研究所・連携研究員）
- **紀要編集者ネットワークキックオフセミナー『紀要』の可能性**
設楽成実（東南アジア地域研究研究所・助教）

[※所属・職位等は企画実施当時のもの]

紀要編集者ネットワーク

紀要の未来を語りませんか

これまででありそうでなかった本学の紀要編集者間のネットワーク。本ネットワークでは学内・外の紀要の編集者を広く結び、ともに紀要の未来を考え、その可能性を追求します。

※紀要：大学・研究機関刊行の学術誌

【代表者】
 設楽成実 京都大学東南アジア地域研究研究所・助教／学術出版
 【メンバー】
 中村沙絵 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授／南アジア・インド洋世界
 設楽成実 京都大学東南アジア地域研究研究所・助教／学術出版



【連絡先】 京都大学東南アジア地域研究研究所 編集室 TEL:075-753-7344
 【主な活動場所】 京都大学東南アジア地域研究研究所 編集室

活動情報

紀要編集者ネットワーク キックオフセミナー『紀要』の可能性

日時 2017年3月24日(金) 14時～17時
 会場 京都大学 稲盛財団記念館 小会議室Ⅱ
 (京都市左京区 吉田下阿達町46)

【メンバー】

- 松林公蔵 京都大学東南アジア地域研究研究所・名誉教授／老年医学、神経内科学、公衆衛生学、健康科学、地域研究、フィールド医学
- 立木康介 京都大学人文科学研究所・准教授／精神分析
- 澤井 努 京都大学 iPS 細胞研究所・特定研究員／生命倫理学、宗教学
- 種村 剛 北海道大学 CoSTEP・特任助教／社会学、社会情報学、討論、演劇を用いた科学技術コミュニケーション
- 川本思心 北海道大学大学院理学研究院 物理学部門・科学史研究室／兼務：高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 准教授／科学技術コミュニケーション、科学技術社会論
- 近藤信彰 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授／西アジア史
- 浅井万友美 『アジア・アフリカ言語文化研究』編集事務担当／チベット語、チベット史
- 設楽成実 京都大学東南アジア地域研究研究所・助教／学術出版
- 中村沙絵 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授／南アジア・インド洋世界



ワークショップ概要

紀要は、若手研究者や院生が研究成果を公表する重要な場です。紀要は、研究者が独自性の強い研究成果を世に問う貴重な場です。紀要は、部局や専攻がその研究スタイルを構築、伝承してゆく場です。

しかし、大手商業学術雑誌こそメインストリームとする風潮のなかで、紀要はその活躍の場を失いつつあります。

そうした危機感を一にする本学の研究者・編集実務者有志が、昨秋、「紀要編集者ネットワーク」を立ち上げました。学内・外の紀要編集者を広く結び、紀要の意義を考え、その活性化に向けた様々な取り組みを行うことをめざします。本ネットワークのキックオフセミナーである今回のセミナーでは、学内・外から分野縦断的に紀要編集者を招き、各誌の取り組みや課題、必要とするサポート体制などについて語っていただきます。またディスカッションでは、スピーカーおよび参加者ともに、紀要の可能性について考えます。

プログラム

- 14:00 趣旨説明
- 14:10 松林公蔵氏(京都大学)『ヒマラヤ学誌』編集長
- 14:30 立木康介氏(京都大学)『ZINBUN』編集委員長
- 14:50 澤井 努氏(京都大学)『いのちの未来』編集委員長
- 15:10 休憩
- 15:20 種村 剛氏／川本思心氏(北海道大学)『科学技術コミュニケーション』編集委員長／副編集委員長
- 15:40 近藤信彰氏／浅井万友美氏(東京外国語大学)『アジア・アフリカ言語文化研究』副編集長／編集事務担当
- 16:00 神谷俊郎氏(京都大学学術研究支援室 URA)：大学によるサポート事例紹介
- 16:20 ディスカッション
- 17:00 閉会の辞
- (17:30 懇親会)

- 参加申込み：https://goo.gl/forms/9apVqK4uvZjmjEssl
- 申込み締切：3月22日
- お子様連れでの参加をご希望の方は、shitara@cseas.kyoto-u.ac.jp までご相談ください

アジア・太平洋海域世界縦横プロジェクト

東南アジアとオセアニアの海でつながる島々の世界を縦横して考えるプロジェクトです。

東南アジアとオセアニアの海域世界は、隣接しながらも研究者間で交流が積極的に行われていません。そこで私たちは両地域を架橋して研究を進めます。

【代表者】
 佐久間 香子 京都大学東南アジア地域研究研究所・連携研究員／ボルネオの人類学、東南アジア地域研究、ツバメの巣

【メンバー】
 北村 由美 京都大学付属図書館・准教授／東南アジア地域研究、図書館情報学、インドネシア近代史

紺屋 あかり お茶の水女子大学・特任講師／地域研究、パラオの口頭伝承学
 陳 玉萃 (CHEN Yuping) 台北医学大学・ポストドクター研究員／パラオの人類学
 堀江 未央 名古屋大学・特任助教／人類学、女性の移動、沖縄地域研究
 若松 大祐 常葉大学外国語学部・講師／現代台湾地域研究、中国近代思想史、近代東アジア政治史

【連絡先】 若松大祐 (dwakamatsu@sz.tokoha-u.ac.jp)
 【主な活動場所】 京都大学内



活動情報

東南アジアとオセアニアをつなぐ：熱帯海域世界の政治史と経済活動

日時 2017年3月4日(土)
 会場 京都大学 吉田南キャンパス 総合人間学部棟 1207教室

【メンバー】

- 佐久間香子 京都大学東南アジア地域研究研究所・連携研究員／ボルネオの人類学、東南アジア地域研究、ツバメの巣
- 紺屋あかり お茶の水女子大学・特任講師／地域研究、パラオの口頭伝承学
- 陳 玉萃 (CHEN Yuping) 台北医学大学・ポストドクター研究員／パラオの人類学
- 若松大祐 常葉大学外国語学部・講師／現代台湾地域研究、中国近代思想史
- 小川 了 東京外国語大学・名誉教授／西アフリカ地域研究、フランス植民地史
- 鈴木佑記 東洋大学・客員研究員／アンダマン海の人類学、ナマコ
- 関 智英 日本学術振興会・特別研究員 PD / 日中間関係史、中国近代史
- 長島怜央 法政大学・非常勤講師／国際社会学
- 比嘉夏子 京都大学大学院人間・環境学研究科・研究員／人類学、トンガの贈与と相互行為

ワークショップ概要

- 12:50 趣旨説明・参加者紹介(佐久間)
- 13:00 プログラム1：歴史からつなぐ－仏、日、米の国際的覇権を比較する－
 東南アジア 小川了(西アフリカ地域研究、フランス植民地史)、若松大祐(現代台湾史)
 (討) 関智英(日中間関係史)
- オセアニア 陳玉萃(パラオ人類学)
 (討) 長島怜央(国際社会学)
- 14:55 休憩
- 15:00 プログラム2：経済からつなぐ－生産／獲得、分配／贈与を比較する－
 東南アジア 佐久間香子(ボルネオの人類学、ツバメの巣)
 (討) 鈴木佑記(アンダマン海の人類学、ナマコ)
- オセアニア 紺屋あかり(パラオ地域研究)
 (討) 比嘉夏子(人類学、トンガの贈与と相互行為)
- 16:30 休憩
- 16:35 総合討論
- 17:20 終了

- 本ワークショップは事前登録制です。参加希望者は2/26(日)までに、必ず参加申し込みを行ってください。
- 参加申込みフォーム：https://goo.gl/forms/sOJg74x6jtCfeGta2
- 参加者は発表原稿を読み、それに対する感想や疑問を文章にまとめ(A4用紙1枚程度)、3/2(木)までに主催者へメールでお送りください。
- 3/3(金)に主催者から参加者へ、討論者によるコメントと参加者の感想文をメールで配信します。
- 参加者は配信された上記の文書ファイルを事前にお読みいただき、3/4(土)のワークショップへご参加ください。

問い合わせ：若松大祐 (dwakamatsu@sz.tokoha-u.ac.jp)

次世代デジタルアーカイブ研究会

様々な研究分野におけるデジタルアーカイブのこれまでとこれからについて考えています。

研究資料の共有をウェブ上で実現することを目的として、これからのデジタルアーカイブがどうあるべきかを考える若手の研究者や実務家中心の集まりです。さらに媒体を問わない様々な資料とデータの作成、管理、長期保存、信頼性の保証など、多様な観点からの悩みや疑問、不満等話し合うことで、有意義な情報の共有、研究素材の提供、異分野との交流を目指します。デジタルアーカイブを媒介として学内、地域、機関等の連携を目指します。

- 〔代表者〕
元 ナミ 京都大学大学文書館・特定助教
- 〔メンバー〕
元 ナミ 京都大学大学文書館・特定助教
齋藤 歩 京都大学総合博物館・特定助教
亀田堯宙 京都大学東南アジア地域研究研究所・助教
橋本 陽 帝国データバンク史料館・研究員
加藤 諭 東京大学文書館・特任助教
渡辺悦子 国立公文書館・公文書専門員
- 〔連絡先〕 won.nami.8x@kyoto-u.ac.jp (元 ナミ)
〔主な活動場所〕 京都大学内



活動情報

デジタルアーカイブの再設計

～資料の利用のために何をすべきか/何が出来るか～

日時 2017年1月21日(土) 13時～18時
会場 京都大学北部構内 理学研究科セミナーハウス
(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downloademap/documents/2016/north.pdf> 10番建物)

- 〔メンバー〕
元 ナミ 京都大学大学文書館・特定助教/アーカイブズ学
齋藤 歩 京都大学総合博物館・特定助教/アーカイブズ学
亀田堯宙 京都大学東南アジア地域研究研究所・助教/情報学
加藤 諭 東京大学文書館・特任助教/大学史・日本近現代史
加藤聖文 国文学研究資料館・准教授/日本近現代史・東アジア国際関係史
渡辺悦子 国立公文書館・公文書専門員/アーカイブズ学
寺澤正直 内閣府大臣官房公文書管理課・公文書管理専門職/図書館情報学
橋本 陽 帝国データバンク史料館・研究員/アーカイブズ学
平野 泉 立教大学共生社会研究センター・アーキビスト/アーカイブズ学
森本祥子 東京大学文書館・准教授/アーカイブズ学



ワークショップ概要

様々な研究分野で一次資料として利用される公文書や古文書、図書館あるいは博物館では扱われないものの研究者間で共有すると役に立つ記録、長く後世に残しておきたい史資料の情報、様々な研究資料の目録、画像、音声、動画…これらにオンラインでアクセスできるツールの一つがデジタルアーカイブ (Digital Archive/Digital Archives) です。元々デジタルアーカイブは、ひとつの組織が、コンピューターで作成したオープンデジタルオブジェクトやデジタル化した資料を、活動の中で記述、検索、閲覧することが目的でした。しかし、現在では個人から組織まで様々な人々が様々なデジタルの資料をウェブ上に公開し、それらもデジタルアーカイブとして広く使われるようになっています。そこで本企画では、デジタルアーカイブの運営・提供者と、デジタルアーカイブを利用している研究者、また今後、手元の資料を公開・保存しようと思っている研究者たちが集まり、(1) デジタルアーカイブを扱う専門家たちは、デジタルアーカイブをどのように定義しているのか、(2) 今後のデジタルアーカイブはどのような可能性と志向をもつのか、について議論します。デジタルアーカイブについての様々な希望や不満、また、資料の保存と公開に関する基本的な疑問から専門的知識の共有まで、多くのご参加をお待ちしています。

- 参加申込みは下記 URL からご登録ください (申込み締切：1月20日(金))
<https://goo.gl/forms/0nzVnQDK4WYPIBpk2>

- | | | |
|-------------|---------------------------------|---|
| 13:00～13:15 | 趣旨説明 | 元 ナミ (京都大学大学文書館/特定助教) |
| 13:15～13:40 | 報告1 「研究資源」から見るデジタルアーカイブの課題 | —京都大学研究資源アーカイブを事例に—
齋藤 歩 (京都大学総合博物館/特定助教) |
| 13:40～14:05 | 報告2 大学アーカイブズにおけるデジタルアーカイブ構築 | —東京大学文書館を事例に—
加藤 諭 (東京大学文書館/特任助教) |
| 14:05～14:30 | 報告3 伝統的アーカイブズ学の理念を反映したデジタルアーカイブ | 橋本 陽 (帝国データバンク史料館/研究員) |
| 14:30～14:55 | 報告4 デジタルアーカイブ構築における機関連携の可能性と条件 | —イギリスの事例から—
渡辺悦子 (国立公文書館 公文書専門員) |
| 14:55～15:10 | *休憩 | coffee and tea break |
| 15:10～15:35 | 報告5 地域研究資料の共有とデジタルアーカイブの距離 | 亀田堯宙 (京都大学東南アジア地域研究研究所/助教) |
| 15:35～16:00 | 報告6 アーカイブズ記述のための概念モデル (RiC) の動向 | —Draft 0.1 版の概要—
寺澤正直 (内閣府大臣官房公文書管理課/公文書管理専門職) |
| 16:00～16:25 | 報告7 ユーザーが語るデジタルアーカイブに必要な機能と限界 | 加藤聖文 国文学研究資料館/准教授 |
| 16:25～16:40 | *休憩 | coffee and tea break |
| 16:40～18:00 | ディスカッション (参加者を含む) | コメント：平野 泉 (立教大学共生社会研究センター/アーキビスト)
森本祥子 (東京大学文書館/准教授) |
| 18:30～20:30 | 懇親会 (参加費 4,000 円程度。場所未定) | |

架橋する伝統技術と現代技術 —未来の地球社会に我々は今何をすべきか

夢のある課題へむけて長期戦に挑むチャレンジ精神・ハングリー精神豊かな人、誰でも歓迎!

本研究グループは「架橋する伝統技術と現代技術—未来の地球社会に我々は今何をすべきか」というグループ名が示す通り、学問分野の垣根を超えて、非常に大規模かつ長期的視点にたった10年、20年規模の時間と予算と様々な「知」と「方法論」を必要とする。主に、南太平洋、インド洋の島嶼国・島嶼地域、辺境かつ広範囲に分散する島々を対象としたフィールドワークをそれぞれの専門家が先行報告と議論を重ねる。

- 〔代表者〕
西本希呼 京都大学 東南アジア研究所・特定助教
- 〔メンバー〕
西本希呼 京都大学 東南アジア研究所・特定助教/フィールド言語学、エスノマセマティックス、科学社会学・科学技術論
Ramongolalaina Clarissien 京都大学 農学研究科・博士課程/植物遺伝子学 (豆類研究)
江端希之 京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科・五年一貫制博士課程/宗教学人類学 (インド洋地域研究 呪術・憑依・伝統宗教)



- 〔連絡先〕 noa@cseas.kyoto-u.ac.jp (西本)
〔主な活動場所〕 京都大学内、南太平洋、インド洋の島嶼地域

活動情報

フィールドから学ぶ栄養と医術 — 架橋する伝統技術と現代技術 —

日時 2016年12月13日(火) 13時～17時
会場 京都大学 稲盛財団記念館 3階 中会議室

- 〔メンバー〕
西本希呼 京都大学 東南アジア研究所・特定助教/フィールド言語学、エスノマセマティックス、科学社会学・科学技術論
Ramongolalaina Clarissien 京都大学 農学研究科・博士課程/植物遺伝子学 (豆類研究)
江端希之 京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科・五年一貫制博士課程
宗教学人類学 (インド洋地域研究 呪術・憑依・伝統宗教)
丸山善宏 京都大学 白眉センター・特定助教/哲学
塚原高広 東京女子医科大学・准教授/国際保健学、生態人類学、医療経済学、総合診療
吉井亜希子 東京女子医科大学・助教/国際保健学、生態人類学
梶 茂樹 京都産業大学・教授、京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・名誉教授/言語学、アフリカ地域研究
水野宏祐 東南アジア研究所・教授/農業経済学、インドネシア地域研究



ワークショップ概要

- 12:30 受付開始
13:00～13:15 西本希呼 (京都大学/言語学、エスノマセマティックス)
13:15～13:40 江端希之 (京都大学 博士課程/宗教学人類学、呪術)
13:40～14:05 丸山善宏 (京都大学/圏論的対称性、数理哲学)
14:05～15:00 ポスターセッション・研究懇親会
フィールドからの料理 (Ramongolalaina Clarissien 提供)
15:00～15:30 塚原高広 (東京女子医科大学/国際保健学、医療経済学)
15:30～15:55 Ramongolalaina Clarissien (京都大学 博士課程/植物遺伝子学)
16:00～16:40 総括・ディスカッション (司会：西本希呼)

京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会 (Kyoto University Zebrafish Users)

ゼブラフィッシュを使った研究を嗜んでみませんか？

ゼブラフィッシュは小さな淡水魚で、主に発生生物学の分野で普及・発展したモデル動物です。近年では『飼いやすい』『実験が簡便』『哺乳類に代替できる』という動機から、疾患研究・創薬・毒性評価・行動学などの領域にも広まりつつあります。将来的には、さらに広い分野で有用な実験動物となるポテンシャルを持っています。私たちは京都大学でのゼブラフィッシュ研究を推進し、ゼブラフィッシュを使ってみたいあらゆる分野の研究者を支援しようと、コミュニティを結成しました。

〔代表者〕
飯田 敦夫 京都大学ウイルス・再生医科学研究所/助教 (発生生物学)

〔メンバー〕
伊東潤二 京都大学医学研究科/特定助教 (乳腺外科)
神田 一 京都大学医学研究科 MIC/客員研究員 (細胞間情報伝達)
河野雅之 京都大学医学研究科/特定講師 (薬剤疫学)
久米利明 京都大学薬学研究科/准教授 (薬品作用解析学)
堀部智久 京都大学医学研究科/特定講師 (薬剤疫学)
松井康人 京都大学環境安全保健機構/准教授 (環境リスク工学)
山本正道 京都大学医学研究科/特定講師 (さきがけ兼任) (腎臓内科)

〔連絡先〕 Kyoto.U.Zebrafish@gmail.com
〔主な活動場所〕 京都大学 (南西病院地区)
〔関連情報〕
ゼブラフィッシュは小さな淡水魚で、主に発生生物学の分野で普及・発展したモデル動物です。近年では『飼いやすい』『実験が簡便』『哺乳類に代替できる』という動機から、疾患研究・創薬・毒性評価・行動学などの領域にも広まりつつあります。将来的には、さらに広い分野で有用な実験動物となるポテンシャルを持っています。私たちは京都大学でのゼブラフィッシュ研究を推進し、ゼブラフィッシュを使ってみたいあらゆる分野の研究者を支援しようと、コミュニティを結成しました。



私たち「京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会」は、
・ゼブラフィッシュを始めたい研究者へのアドバイスと支援
・飼育はしないけど使ってみたい「チョイ乗り共同研究」の受託
・新規参入希望者の相談窓口となるプラットフォームの構築
・学内共同研究の推進による研究力の強化
を共に推進できる同志を募集しています。

『共同研究の具体的なビジョンがある』『悩んでいることがあるので相談したい』『ゼブラフィッシュについてもっと知りたい』など、少しでも興味を持ったら「Kyoto.U.Zebrafish@gmail.com」へ連絡を頂ければ幸いです。

活動情報

京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会「顔見世キックオフ」

日時 2017年1月20日(金) 会場 京都大学南西地区 某所(会場は申し込み者にのみ直接お知らせします。)

〔メンバー〕
飯田敦夫 京都大学ウイルス・再生医科学研究所/助教 (発生生物学) 堀部智久 京都大学医学研究科/特定講師 (薬剤疫学) 松井康人 京都大学環境安全保健機構/准教授 (環境リスク工学)
伊東潤二 京都大学医学研究科/特定助教 (乳腺外科) 山本正道 京都大学医学研究科/特定講師 (さきがけ兼任) (腎臓内科)
神田 一 京都医学研究科 MIC/客員研究員 (細胞間情報伝達) 山本佳紀 株式会社イワキ 魚類飼育機器製造・販売
河野雅之 京都大学医学研究科/特定講師 (薬剤疫学) 北村広行 清水実験材料株式会社 魚類飼育機器製造・販売
久米利明 京都大学薬学研究科/准教授 (薬品作用解析学) 白井哲哉 京都大学学術研究支援室/リサーチ・アドミニストレーター

ワークショップ概要

ゼブラフィッシュは小さな淡水魚で、主に発生生物学の分野で普及・発展したモデル動物です。近年では『飼いやすい』『実験が簡便』『哺乳類に代替できる』という動機から、疾患研究・創薬・毒性評価・行動学などの領域にも広まりつつあります。将来的には、さらに広い分野で有用な実験動物となるポテンシャルを持っています。私たちは京都大学でのゼブラフィッシュ研究を推進し、ゼブラフィッシュを使ってみたいあらゆる分野の研究者を支援しようと、コミュニティを結成しました。私たち「京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会」は、
・ゼブラフィッシュを始めたい研究者へのアドバイスと支援
・飼育はしないけど使ってみたい「チョイ乗り共同研究」の受託
・新規参入希望者の相談窓口となるプラットフォームの構築
・学内共同研究の推進による研究力の強化を共に推進できる同志を募集しています。

学内のゼブラフィッシュ研究者、および新規参入希望者を集め、顔合わせと自己紹介を兼ねた「顔見世キックオフ発表会」を行います。そして、学内共同研究や活発な議論を行うための土台作りを進めます。医薬分野などは機密にすべき内容も多いことから、発表会は完全登録制とし、機密保持契約書への署名を義務付けます。企画終了後は、参加者に関してはメーリングリストによる相互交流体制を構築します。

18:00 開会
白井哲哉/KURAによる京都大学研究支援について
18:05 飯田敦夫/趣旨説明と自己&研究紹介
18:20 伊東潤二/自己&研究紹介
18:30 神田一/自己&研究紹介
18:40 河野雅之・堀部智久/自己&研究紹介
18:50 久米利明/自己&研究紹介
19:00 松井康人/自己&研究紹介
19:10 *小休憩*
19:20 山本正道/自己&研究紹介
19:35 (株)イワキ・清水実験材料(株)/ゼブラフィッシュ飼育機器および消耗品の取り扱いについて
19:40 参加登録者 フラッシュトーク
20:15 飯田敦夫/今後の活動について
閉会
20:30 懇親会

- 対象：京都大学に在籍し、ゼブラフィッシュに興味がある、あらゆる分野の研究者 (学生の場合は研究責任教員の許可が必要)
- 備考：参加にあたり「秘密保持に関する同意書」への署名をお願いします
- 問い合わせ & 申込：「Kyoto.U.Zebrafish@gmail.com」までご連絡ください

京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会
Kyoto University Zebrafish Users

私たちは「京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会」による選抜・認定、および新規参入者プラットフォームの構築を目的とした新しい学際研究グループです。ゼブラフィッシュを材料とした発生生物学や、疾患・創薬研究の学内共同研究を推進・支援します。ゼブラフィッシュ未参入の新規参入者も大歓迎です。

ゼブラフィッシュを使った研究のメリットを最大限に引き出すために、
・学内共同研究の推進による研究力の強化
・新規参入希望者の相談窓口となるプラットフォームの構築
・飼育はしないけど使ってみたい「チョイ乗り共同研究」の受託
を共に推進できる同志を募集しています。

趣旨説明とキックオフ懇親会
日時 2017年1月20日(金) 18時から22時頃
場所 京都大学南西地区 某所
対象 京都大学に在籍し、ゼブラフィッシュに興味のあるあらゆる分野の研究者
参加費 参加費は無料です。ただし、懇親会には飲み物や軽食の費用がかかります。お申し込みは「Kyoto.U.Zebrafish@gmail.com」までお問い合わせください。

京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会
Kyoto University Zebrafish Users

1. ゼブラフィッシュとは？
中東アジア産の小さな淡水魚で、1900年代頃から実験動物として利用されてきました。近年では遺伝子編集やゲノム編集技術の進歩により、疾患研究や創薬、および毒性評価などに利用される研究領域で、哺乳類に代替可能な材料として注目されています。

2. 国内外の状況
欧米ではゼブラフィッシュを用いた医薬品開発に向けた研究体制が構築されています。国内の基礎研究の分野では「小動物実験研究 (1) 1日1000」(「国内おきの情報誌」(おおきの情報誌))が活動しています。また、創薬研究に特化した「ゼブラフィッシュ創薬研究」も2015年から活動をスタートしています。

3. 京都大学の状況
現在までに、ゼブラフィッシュをキーワードとした学際ネットワーク構築が進められています。そこで、国内共同研究の推進や学内共同研究の推進、創薬・疾患研究・創薬・毒性評価・行動学などの分野で、京都大学内における学際共同研究の推進を支援します。

4. 目指すもの
・京都大学での共同研究や学内共同研究を促進し、ゼブラフィッシュ研究の推進
・創薬・疾患研究や学内共同研究を促進し、学内共同研究の推進
・創薬・疾患研究の窓口となるプラットフォームの構築
・ゼブラフィッシュを材料とした京都大学の学際研究力の強化

内在性ウイルス様エレメント研究会 (ENDEAVR)

最先端のテクノロジーで太古のウイルスを研究するロマンに魅せられた研究者集団です。

最先端のテクノロジーで太古のウイルスを研究するロマンに魅せられた研究者集団です。

〔代表者〕
牧野晶子 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所
ヒトがんウイルス研究分野・特定助教 (ウイルス学)

〔メンバー〕
堀江真行 鹿児島大学 共同獣医学部・特任助教 (獣医学)
中川 草 東海大学 医学部・助教 (ゲノム科学)
小林由紀 日本大学 生物資源科学部・助教 (進化生物学)
小柳三千代 神戸大学大学院 医学研究科・特命助教 (幹細胞生物学)
伊東潤平 国立遺伝学研究所 人類遺伝学部門・博士課程 (ゲノム医学)
小嶋将平 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所・博士課程 (分子生物学)

〔連絡先〕 akkmakino@gmail.com (牧野晶子)
〔主な活動場所〕 京都大学内
〔関連情報〕 http://endeavr.jimdo.com/

活動情報

第1回内在性ウイルス様エレメント研究会

～君も ENDEAVR に乗らないか？

ジュラシック・ウイルス・ワールドへ発進！～

日時 2016年12月16日(金)
会場 京都大学 国際科学イノベーション棟 ミーティングルームE・F
(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downlodemap/documents/2016/main.pdf 69番建物)

〔メンバー〕
牧野晶子 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 ヒトがんウイルス研究分野・特定助教 (ウイルス学)
堀江真行 鹿児島大学 共同獣医学部・特任助教 (獣医学)
中川 草 東海大学 医学部・助教 (ゲノム科学)
小林由紀 日本大学 生物資源科学部・助教 (進化生物学)
小柳三千代 神戸大学 大学院 医学研究科・特命助教 (幹細胞生物学)
伊東潤平 国立遺伝学研究所 人類遺伝学部門・博士課程 (ゲノム医学)
小嶋将平 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所・博士課程 (分子生物学)
伊藤秀臣 北海道大学・助教 (分子遺伝学)
細 将貴 京都大学 白眉センター・助教 (進化生物学)
Jeffrey A. Fawcett 総合研究大学院大学・研究員 (ゲノム科学)
西原秀典 東京工業大学・助教 (進化生物学 / 生物多様性・分類)

ワークショップ概要

プログラム (予定)

12:30 開場
13:00～13:05 開会挨拶 「内在性ウイルス様エレメント研究会設立にあたって」 牧野晶子
13:05～13:30 基調講演「EVE 研究の潮流 (仮)」 堀江真行
13:30～14:00 講演「植物におけるトランスポソンのエピジェネティックな制御機構」 伊藤秀臣
14:00～14:30 講演「iPS 細胞とがんにおけるヒト内在性レトロウイルスの機能を探る」 小柳三千代
14:30～14:45 コーヒーブレイク 付箋貼り付け
14:45～15:15 講演「転移因子を利用した哺乳類のシス調節配列の進化」 西原秀典
15:15～15:45 講演「左右非対称性の進化生物学：追うへびと逃げるカタツムリの共進化」 細 将貴
15:45～16:00 コーヒーブレイク 付箋貼り付け
16:00～16:30 講演「トランスポソンの水平伝播について～本当にそんなに起こっているの？～」 Jeffrey A. Fawcett
16:30～17:00 講演「連続塩基組成に基づくウイルスゲノムの多様性の解明」 阿部貴志
17:00～19:00 懇談会 ポスター、フリーディスカッション
19:00～20:00 今後の研究活動についての打ち合わせ

- 参加登録・詳細：http://endeavr.jimdo.com/

【共催】 文部科学省科研費新学術領域「ネオウイルス学」
【協賛】 株式会社ファスマック



不利益システム研究所

ユーザに不利益をもたらすシステムをデザインする方法を探求する

不便だからこそその効用を不利益と呼び、不利益とはなんぞや、ユーザに不利益をもたらすシステムをデザインする方法や如何に、を探求するグループ

〔代表者〕
川上 浩司 京都大学 デザイン学ユニット・特定教授 (システム工学・システムデザイン)
〔メンバー〕
平岡 敏洋 京都大学 情報学研究所・助教 (ヒューマンインタフェース)



〔連絡先〕 TEL : 075-762-2087
〔主な活動場所〕 京都大学吉田キャンパス

活動情報

「不利益システム研究会「心」・「技」・「体」：不利益システムの社会実装に向けたプラットフォーム構築」 不利益システム研究会「心」

日時 2016年12月9日(金) [メンバー]
会場 キャンパスプラザ京都 6F 第7講習室 川上浩司 京都大学 デザイン学ユニット・特定教授 (システム工学・システムデザイン)
(龍谷大学サテライト講習室) 平岡敏洋 京都大学 情報学研究所・助教 (ヒューマンインタフェース)
(http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access) 白川智弘 防衛大学校 電気情報学群情報工学科・助教 (生命システム論)

ワークショップ概要

不利益システム研究会「心」

日時 2016年12月9日(金)
16:00～18:00
会場 キャンパスプラザ京都 6F 第7講習室 (龍谷大学サテライト講習室)
参加費 無料 (ただし懇親会参加は実費)

16:00～17:00 話題提供：「生命と不利益」(防衛大学校電気情報学群情報工学科 白川智弘 助教)
道具が道具としての定義に従った機能性を提供することが便利であるとするならば、不利益とは道具が使用者や使用環境と出会い、相互作用することによって定義に含まれない想定外の益をもたらすことであると言い換えることができる。このような事態は、生き物がその進化における試行錯誤の結果、元々生存には直結していなかった構造や機能に新たな意味を付与し、新しい生物としての在り方(新たな生態学的ニッチ)を獲得することに類似している。本講演の前半では、道具-環境という関係を生物-環境という関係にパラフレーズすることによって、生命システム論の観点から不利益の意義を再評価すると共に、不利益を表現するための新しい方法について提案する。後半では、前半での議論を踏まえつつ、教育における不利益を定量的に評価するための実験について紹介する。
17:00～18:00 ワーク：生命と不利益
● 詳細：http://www.symlab.sys.i.kyoto-u.ac.jp/fubenekisystemlab.html

不利益システム研究会「技：不利益システム製作所キックオフ」

日時 2017年1月15日(日) [メンバー]
会場 俵 越山事務所 川上浩司 京都大学 デザイン学ユニット・特定教授 (システム工学・システムデザイン)
(京都市下京区東中筋通六条) 平岡敏洋 京都大学 情報学研究所・助教 (ヒューマンインタフェース)

ワークショップ概要

不利益システム研究会「技：不利益システム製作所キックオフ」

日時 2017年1月15日(日) 15:00～17:00
会場 俵 越山事務所(京都市下京区東中筋通六条)
参加費 無料 (ただし懇親会参加は実費)

15:00～15:30 話題提供：製作所発足の意味(製作所長)
15:30～16:00 話題提供：不利益という考え方(研究所代表)
16:00～17:00 ワーク：これからのモノ造りに関して不利益に期待すること(製作所開発部部長)
● 詳細：http://www.symlab.sys.i.kyoto-u.ac.jp/fubenekisystemlab.html

不利益システム研究会「体」

日時 2017年2月25日(土) [メンバー]
会場 キャンパスプラザ京都 2Fホール 川上浩司 京都大学 デザイン学ユニット・特定教授 (システム工学・システムデザイン)
(http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access) 平岡敏洋 京都大学 情報学研究所・助教 (ヒューマンインタフェース)
貝沼 航 漆とロック株式会社・代表取締役

ワークショップ概要

不利益システム研究会「体」

日時 2017年2月25日(土)
13:45～16:45
会場 キャンパスプラザ京都 2Fホール
参加費 無料 (ただし懇親会参加は実費)

13:45～15:45 話題提供：貝沼 航氏(漆とロック株式会社代表取締役)
15:45～16:45 ワーク：「価値を何で測ろう? 便利と不便の逆転ワークショップ」
不便だからこそその効用が得られるシステムを不利益システムと呼ぶと、それをデザインするためには、不利益システムとみなせる既存の物事から得られる知見は重要である。そのようなシステムの一つとして「漆器」に注目し、福島県会津地方で伝統工芸の漆器づくりを応援する会社「漆とロック」を経営する貝沼航氏を招いて、「手間がかかったり、頭を使わねばならなかったりするからこそその益がある」漆器というものを使う豊かさについてお話を伺う。特に食器に注目すると、それらは耐用年数が長く、使い続けるという手間があることで色艶が良くなり、きれいに穏やかに保たれてゆく器である。福島での震災体験から「取り戻すべき『不利益』」や「今まで希求してきた豊かさの『ものさし』」に対する気づきが得られた。これと漆器の関係についても議論したい。
● 詳細：http://www.symlab.sys.i.kyoto-u.ac.jp/fubenekisystemlab.html

複合国家イギリスに関する思想史研究会

イギリスを複合国家として眺めるとその思想史叙述がどのように変わりうるのかをあれこれと議論します。

全員が必ずしも顔見知りではありませんでしたが、「友達の友達」を連れてくるような形で、外部資金の獲得を機に研究会を組織しました。研究対象は16世紀から現代、対象領域は、イングランド、スコットランド、アイルランド、フランス、研究手法は、思想史学から現代社会論、そして美学・哲学まで、多様な問題関心をもちつつも共同研究する楽しさを共有できる仲間たちの集まりです。

〔代表者〕
竹澤祐文 京都大学経済学研究所・准教授/社会思想史
〔メンバー〕
岩井 淳 静岡大学人文社会科学部・教授/西洋史
木村俊道 九州大学法学研究院・教授/政治思想史
桑島秀樹 広島大学総合科学研究科・教授/美学・哲学
安武真隆 関西大学政策創造学部・教授/政治思想史
森 直人 高知大学人文社会科学部・准教授/経済思想史
佐藤一進 京都精華大学芸術学部・准教授/現代社会論・社会思想
武井敬亮 京都大学経済学研究所経済資料センター・ジュニア・リサーチャー/社会思想史



〔連絡先〕 京都大学経済学研究所 竹澤研究室 (takezawa@econ.kyoto-u.ac.jp)
〔主な活動場所〕 京都大学経済学研究所 竹澤研究室

活動情報

ヨーロッパ複合国家論の可能性 —イギリス思想史研究との対話—

日時 2017年1月28日(土)～29日(日)
会場 京都大学 国際科学イノベーション棟 会議室5a・5b
(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downlodemap/documents/2016/main.pdf 69番建物)

〔メンバー〕

岩井 淳 静岡大学人文社会科学部・教授/西洋史 (イギリス史)
木村俊道 九州大学法学研究院・教授/政治思想史 (イギリス)
桑島秀樹 広島大学総合科学研究科・教授/美学・哲学 (アイルランド)
安武真隆 関西大学政策創造学部・教授/政治思想史 (フランス)
森 直人 高知大学人文社会科学部・准教授/経済思想史 (イギリス、特にスコットランド)
佐藤一進 京都精華大学芸術学部・准教授/現代社会論・社会思想
武井敬亮 京都大学経済学研究所経済資料センター・ジュニア・リサーチャー/社会思想史 (イギリス)
小山 哲 京都大学文学研究科・教授/西洋史 (ポーランド史)
大津留厚 神戸大学人文学研究科・教授/西洋史 (オーストリア史)
勝田俊輔 東京大学人文社会系研究科・准教授/西洋史 (アイルランド史)
齋藤英里 武蔵野大学経済学部・教授/経済史 (イギリス、日本)
中島 渉 明治大学商学部・教授/英文学
貫 龍太 京都大学大学院経済学研究所・博士後期課程学生/社会思想史 (イギリス、特にアイルランド)
衣笠太郎 東京大学大学院大学院総合文化研究科・博士課程学生/西洋史 (ドイツ・ポーランド関係史)
望月秀人 日本福祉大学・非常勤講師/西洋史 (ドイツ・オランダ関係史)
鎌田厚志 九州大学大学院法学府・協力研究員/政治思想史 (イギリス、特にスコットランド)
竹澤祐文 京都大学経済学研究所・准教授/社会思想史 (イギリス)

ワークショップ概要

1月28日(土)

13:00～13:10 趣旨説明：竹澤祐文(京都大学経済学研究所・准教授)
13:10～13:40 基調報告：岩井 淳(静岡大学人文社会科学部・教授)
「イギリス複合国家論の展開(仮題)」

I. ヨーロッパの複合国家研究

13:40～14:10 フランス思想史からの複合国家論：
安武真隆(関西大学政策創造学部・教授)
14:10～14:20 休憩
14:20～14:50 ポーランド史からの複合国家論：
小山 哲(京都大学文学研究科・教授)
14:50～15:20 オーストリア史からの複合国家論：
大津留厚(神戸大学人文学研究科・教授)
休憩
15:20～15:30 コメント1:望月秀人(日本福祉大学・非常勤講師)
15:30～15:45 コメント2:衣笠太郎
(東京大学大学院大学院総合文化研究科・博士課程学生)
16:00～17:00 フロアからの討論
17:30～20:00 懇親会
(参加費:4,000円程度、会場:京都大学本部構内「カンフォーラ」)

1月29日(日)

II. アイルランドと複合国家論

9:00～9:30 アイルランド史からの複合国家論：
勝田俊輔(東京大学人文社会系研究科・准教授)
9:30～10:00 スウィフトと複合国家：中島 渉(明治大学商学部・教授)
10:00～10:30 日本の植民学におけるアイルランド認識と複合国家論：
齋藤英里(武蔵野大学経済学部・教授)
10:30～10:45 休憩
10:45～11:00 コメント3:鎌田厚志(九州大学大学院法学府・協力研究員)
11:00～11:15 コメント4:貫 龍太
(京都大学大学院経済学研究所・博士後期課程学生)
11:15～12:15 フロアからの討論

III. 思想史からの応答と総括討論

12:15～13:30 昼食 & 休憩
13:30～14:00 イギリス思想史における複合国家論の可能性：
竹澤祐文(京都大学経済学研究所・准教授)
14:00～16:30 総括討論
16:30 閉会のご挨拶：
イギリス思想史研究のイノベーションに向けて



生物群横断系統地理の会

生物群の違いを飛び越えて「系統地理」で議論しましょう！

地域間で生物がどう違って
いるか？ その違いはどう生
まれたのか？ に興味がある
集まりです。

〔代表者〕
岩崎貴也 京大大学生態学研究中心・日本学術振興会特別研究員 (PD) /
分子系統地理学、集団遺伝学、保全遺伝学

〔メンバー〕
阪口翔太 京大大学人間環境学研究所・助教/分子系統地理学、集団遺伝学
工藤 洋 京大大学生態学研究中心・教授/分子生態学

〔連絡先〕 Tel : 077-549-8215 Mail : takaya-iwasaki@ecology.kyoto-u.ac.jp
〔主な活動場所〕 京都大学内



活動情報

生物群横断系統地理ワークショップ

日時 2016年10月29日(土)～30日(日)
会場 京都大学 北部構内 理学部セミナーハウス
(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downloademap/documents/2016/north.pdf> 10番建物)

〔メンバー〕
岩崎貴也 京大大学生態学研究中心・日本学術振興会特別研究員 (PD)
阪口翔太 京大大学人間環境学研究所・助教
工藤 洋 京大大学生態学研究中心・教授
津田吉晃 筑波大学菅平高原実験センター・准教授
広瀬 大 日本大学薬学部・准教授
高田 智 お茶の水女子大学理学部・准教授
東城幸治 信州大学理学部・准教授
岡本 卓 京都大学大学院理学研究科・助教
渡辺勝敏 京都大学大学院理学研究科・准教授
井鷲裕司 京都大学大学院農学研究科・教授



ワークショップ概要

10月29日(土)〈主にライトニングトークとグループディスカッション〉

12:00～ 受付
13:00～13:15 岩崎貴也・阪口翔太による集会全体のイントロダクション
13:15～14:15 自己紹介トーク(自己紹介、一人当たり1分)
14:15～14:30 休憩+ポスターボードなどでテーマディスカッション
14:30～15:30 研究ライトニングトーク(一人5分)
15:30～15:45 休憩+ポスターボードなどでテーマディスカッション
15:45～16:15 ポスター発表(奇数番号、コアタイム)+
ポスターボードなどでテーマディスカッション
16:15～16:45 ポスター発表(偶数番号、コアタイム)+
ポスターボードなどでテーマディスカッション
16:45～17:15 グループディスカッション(ホワイトボードや付箋紙を使用し、
「地理的分化パターン」「分岐年代」「移動分散」「集団遺伝学」
「生態ニッチモデリング」の5テーマに分かれて議論)
17:15～18:00 各テーマ代表者による、グループディスカッションの
まとめ発表
18:00～20:30 懇親会(@理学部セミナーハウス)

10月30日(日)〈主に招待講演とGISハンズオン〉

9:30～9:35 岩崎貴也・阪口翔太による導入・紹介など
9:35～10:05 東城幸治「面白さ満載!! 日本の昆虫の系統地理」
10:05～10:35 高田智「大型藻類(海藻類、マリモ)の系統地理学的解析」
10:50～11:20 渡辺勝敏「日本列島の淡水魚類の生物地理:到達点と課題」
11:20～11:50 広瀬大「日本における菌類の系統地理学的研究の
現状と課題」
12:50～13:20 岡本卓「日本産陸生爬虫類の歴史生物地理
～地理的分布と分岐年代の比較分析～」
13:20～13:50 津田吉晃「世界に飛び立て! phylogeographers!
～東アジアにおける植物系統地理学的研究の魅力と限界～」
13:50～14:00 井鷲裕司(コメント)
14:00～14:30 総合討論
15:00～17:30 岩崎貴也・阪口翔太による GIS ハンズオン
「綺麗な地図の作り方」

● 詳細・参加申込み:
<https://sites.google.com/site/phylogeographyworkshop2016/>

愛とアイデンティティー研究会

本気で愛を考える。

西洋思想を基盤に捉えられてきた
「愛」について、「生物としての人
間」という視点にたち、多彩な文
化を受け入れてきたアジアに軸足
をにおいて徹底的に問い直す研究会

〔代表者〕
小石かつら 京都大学白眉センター・特定助教/音楽学

〔メンバー〕
ジェニファー・コーツ 京都大学白眉センター・特定助教/映画学
和田郁子 岡山大学社会文化科学研究科・助教 /インド洋海域史

〔連絡先〕 koishi.katsura.7r@kyoto-u.ac.jp (小石かつら)
〔主な活動場所〕 京都大学白眉センター
〔関連情報〕 他者との邂逅は何をもたらすのか「異文化接触を再考する」(昭和堂)
2017年3月31日刊行 和田郁子編 小石かつら編
異文化接触が語られる時、そこに異質性を見出しているのは誰なのだろうか。私たち
たちにとっての異文化は、かつて、今も、これからも異文化なのだろうか。人々の
移動や表象文化などをテーマに人間が経験した多様な他者との邂逅を見つめ直し、
「異文化接触」を再考する意欲的な試み。



活動情報

Longing for Beauty, Exchanging Designs:

Encounters in Aesthetic and Historical Approaches

(憧れと交流が紡ぐ「伝統」の美

テキスタイルに迫る美学と歴史学のアプローチ

日時 2016年9月22日(祝・木)
会場 京都大学白眉センター(学術研究支援棟(旧VBL棟)1階) セミナー室1
(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downloademap/documents/2016/main.pdf> 61番建物)

〔メンバー〕
小石かつら 白眉センター・特定助教/音楽学
ジェニファー・コーツ 白眉センター・特定助教/映画学
和田郁子 岡山大学大学院社会文化科学研究科・助教 /インド洋海域史

ワークショップ概要

14:00～14:10 ジェニファー・コーツ(白眉センター) 趣旨説明
14:10～14:55 Respicio Norma (The University of the Philippines)
講演: Material Exchanges and National Identity Formation with focus
on Textiles -patterns, materials and techniques in Philippine
Textile Weaving and their Affinities with neighbour-cultures
15:00～15:40 和田郁子(岡山大学)
講演: Global Influences on Traditional Aesthetics: Tracing the Route of
Textiles from India to Japan in Early Modern Days
15:45～15:55 小石かつら(白眉センター) コメント
16:00～16:10 ジェニファー・コーツ(白眉センター) コメント
16:10～17:00 ディスカッション:
参加者に質問票を配布・回収し、それをもとに質疑応答をおこなう。
またホワイトボードを用いて議論が有機的に展開するよう誘導することによって、
参加者が、分野によるディシプリンの差異や新たな可能性に気づくことをめざす。



言語復興の港プロジェクト

地域言語コンテンツの制作・利用を核として、さまざまな地域コミュニティと専門家の参加によって拡張することができる、言語復興研究プラットフォーム

- [代表者]
 山田真寛 京大大学学際融合教育研究推進センター アジア研究教育ユニット 特定助教
- [メンバー]
 山田真寛 京大大学学際融合教育研究推進センター アジア研究教育ユニット 特定助教
 浅川友里江 京大大学学術情報メディアセンター コンテンツ作成室
 名倉剛志 株式会社 GK 京都 デザイナー
 濱田圭祐 株式会社 GK 京都 デザイナー

[主な活動場所] 京大大学内
 [関連情報] 2016年5月13日 京都新聞夕刊(7版1面)掲載 (京都新聞社提供) →

「みちやぬ ふい」沖永良部のことばの絵本
 (言語復興の港) 2016年3月発行
 作話・朗読: まつむらひかる 絵: やまだまさひる
 録音: かなきやすひる
 「ことばの解説」と「朗読CD」付き



活動情報

消滅危機言語復興のためのワークショップ

日時 2015年9月6日 13時～19時
 会場 京大大学文学部新館 地下大会議室

- [メンバー]
 山田真寛 京大大学学際融合教育研究推進センター アジア研究教育ユニット 特定助教
 浅川友里江 京大大学学術情報メディアセンター コンテンツ作成室
 名倉剛志 株式会社 GK デザイナー
 濱田圭祐 株式会社 GK デザイナー

ワークショップ概要

「消滅危機言語復興のためのワークショップ」

*与那国島から招聘:我那覇美穂、山口晋平、上地艶子、與那覇有羽

- 13:00～13:20 ウォームアップ・イントロ「趣旨説明・与那国ラジオ体操」
- 13:20～13:55 グループワーク 1-1
 テーマ「与那国語が日本語と同じように使われるようになった世界はどんなかね」
- 13:55～14:30 グループワーク 1-2
 テーマ「～を実現させるためには」
- 14:30～14:40 (ブレイク)
- 14:40～15:10 グループ発表、共有 → メンバーチェンジ
- 15:10～15:45 グループワーク 2-1
 テーマ「与那国語が日本語と同じように使われるようになった世界はどんなかね」
- 15:45～16:20 グループワーク 2-2
 テーマ「～を実現させるためには」
- 16:20～16:30 (ブレイク)
- 16:30～17:00 発表、全体ディスカッション
- 17:00～17:45 グループごとにストーリーを考えて寸劇
- 17:45～18:00 まとめ



東方キリスト教圏研究会

「東方キリスト教圏」という地理的概念を提示し、多分野を包摂する学際研究を行っている。

- [代表者]
 杉本淑彦 京大大学文学研究科 二十世紀学専修・教授
- [メンバー]
 福田耕佑 京大大学文学研究科・修士課程
 早川尚志 京大大学文学研究科・修士課程
 青山忠申 京大大学文学研究科・修士課程
 河村聡人 京大大学附属花山天文台・博士課程
 黒澤 巖 京大大学農学研究科・修士課程

《メッセージ》
 「東方キリスト教圏」に関心を持って下さる研究者の方の参加を心よりお待ちしております。

[連絡先] eoas.office@gmail.com
 (東方キリスト教圏研究会事務局宛)
 [主な活動場所] 主に京大大学文学部
 [関連情報]
 [HP] <http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/~hayakawa/eoas/index.html>
 [Twitter] @eoas_info



当会は地理的概念である「東方キリスト教圏」を提唱している。そこで見られる現象に関する研究は、従来国際政治、地政学、地域経済や農業、歴史、宗教などの分野において個々別々に、高度な研究が蓄積されてきた。しかし個々の優れた研究にも関わらず、各分野の研究者間での連携が十分であったとは言えず、今なお当該地域の全体像を結び得ていないという問題を残している。このような事態は、文学部という学部においてでさえ例外ではなく、所謂「史・哲・文」の研究の間ですら、互いの研究伝統や方法論の差異に妨げられ、十分なコミュニケーションが取られているとは言えない。当会は当該地域の研究に関する上述の問題を解消すべく、学部や研究手法や研究伝統の垣根を越えた相互理解と意思疎通をすすめ、十分な広い視野を持った研究成果を上げ、学術界をはじめ、ここで得られた成果を世に広く発信していくことを目指している。

活動情報

東西文化の多様と共存モデル

「東方キリスト教圏」を多角的に考える学際的試み—

日時 2016年1月31日(日) 10時50分～17時45分
 会場 京大大学吉田キャンパス本部構内
 文学部新館第7講義室(プログラム第一部) 文学部新館第1講義室(プログラム第二・三部)

- [メンバー]
 杉本淑彦 京大大学文学研究科・教授 河村聡人 京大大学附属花山天文台・博士課程
 福田耕佑 京大大学文学研究科・修士課程 青山忠申 京大大学文学研究科・修士課程
 早川尚志 京大大学文学研究科・修士課程 黒澤 巖 京大大学農学研究科・修士課程

ワークショップ概要

東西文化の多様と共存モデル—「東方キリスト教圏」を多角的に考える学際的試み—

会期: 2016年1月31日(日)
 会場: 京大大学吉田キャンパス本部構内 文学部新館第7講義室(プログラム第一部)、文学部新館第1講義室(プログラム第二・三部)

プログラム

- 10:30 受付開始(文学部新館第7講義室)
- 10:50 開会挨拶
- 第一部 研究発表(司会:青山忠申・京大大学文学研究科・MC)(発表時間:30分・質疑応答:15分)
- 11:00 研究発表①【ユダヤ学】発表者:手島勲矢(同志社大学神学部元教授)
 タイトル:「聖書翻訳とヘブライ語聖書—東方教会を考える一つの視点」
 コメンテーター:武藤慎一(大東文化大学准教授)
- 11:45 研究発表②【キリスト教神学】発表者:プラジミロブ イボウ(京大大学文学研究科・DC)
 タイトル:「真理の柱—パーヴェル・フロレンスキイ神父の思想と時代をめぐって」
 コメンテーター:上原潔(大阪産業大学教養学部・非常勤講師)
- (休憩:12:30～13:30)
- 13:30 研究発表③【天文学】発表者:河村聡人(京大大学附属花山天文台・DC)
 タイトル:「太陽学者から見た天変の歴史:空白のユーラシア中央部」
 コメンテーター:作花一志(京都情報大学院大学教授)

- 14:15 研究発表④【科学史】発表者:細川瑠璃(京大大学地域文化研究科・MC)
 タイトル:「パーヴェル・フロレンスキイの天動説」
 コメンテーター:中村唯史(京大大学文学研究科教授)
- 15:00 研究発表⑤【歴史学】発表者:上栂智生(京大大学文学研究科・DC)
 タイトル:「ビザンツ帝国におけるローマ人意識の展開と変容—後期ビザンツ研究からの視点」
 コメンテーター:井上浩一(佛教大学歴史学部特任教授)
- 第二部 オーディエンス参加型フリップディスカッション
 (司会:福田耕佑・京大大学文学研究科・MC)
- 15:45 開始 主題:「東方キリスト教圏とは何か?」
- 17:15 終了
- 第三部 総括(早川尚志・京大大学文学研究科・MC)
- 17:15 開始
- 17:45 閉会挨拶



*ポスターセッション参加者

- ・宮川 創(ゲッティンゲン大学・京大大学 博士過程1年)「コプト・エジプト語サイド方言テキストのデジタル化における諸問題—Unicode・OCR・電子コーパス化を中心に—」
- ・畔柳千明(京大大学大学院 総合文化研究科地域文化研究専攻 修士課程2年)「北京宣教師(1715-1954)とイアキンフ・ビチューリン」
- ・高橋朝晴(京大大学大学院 総合生存学館 修士課程2年)「ルンダ学生英語学習に対する動機づけ—教授言語の変更を通じて—」
- ・渡邊蘭子(京大大学大学院 文学研究科キリスト教専攻 修士課程1年)「アウグスティヌスと東方教父の救済観比較」
- ・柴田広志(京都府立大学 共同研究員)「情報ノート」研究への展望」
- ・伊藤 崇展(大阪大学大学院 文学研究科文化動態論専攻 修士課程1年)「モンゴル帝国期の景教—モンゴル国における考古学調査の成果から—」
- ・早川尚志(京大大学大学院 文学研究科西南アジア史学専攻)「内陸アジアにおける国家と交易路 モンゴル・ウルクスの事例を中心に」
- ・福田耕佑(京大大学文学研究科 20世紀学専攻 修士課程2年)「東西世界の霊性の融合 カザンザキスのギリシア性」
- ・青山忠申(京大大学文学研究科 スラブ語・スラブ文学専攻 修士課程1年)「ロシア語における"ト"分詞"アクセントのモビリティについて」

「現代／世界とは何か？」研究班

- 【代表者】
 森岡優紀 京都大学人文科学研究所・特別研究員
- 【メンバー】
 森岡優紀 京都大学人文科学研究所・特別研究員
 長沢一恵 天理大学・非常勤講師
 宋玉梅 京都大学人間環境学研究所・博士課程
 谷雪妮 京都大学文学研究科・博士課程

【主な活動場所】京大校内

活動情報

東アジアにおける叙述と歴史（国際ワークショップ）

日時 2016年2月13日(土) 13時～17時
 会場 京都大学人文科学研究所 3Fセミナー室4(331)

- 【メンバー】
 森岡優紀 京都大学人文科学研究所・特別研究員
 長沢一恵 天理大学・非常勤講師
 宋玉梅 京都大学人間環境学研究所・博士課程
 谷雪妮 京都大学文学研究科・博士課程

ワークショップ概要

「東アジアにおける叙述と歴史（国際ワークショップ）」

【開会の言葉】
 山室信一（京都大学人文科学研究所・教授）

【プログラム】
 司会：森岡優紀
 「Narrative Rupture in Matayoshi Eiki's Ginnemu Yashiki（断絶する語り：又吉栄喜『ギンネム屋敷』Davinder Bhowmik（ワシントン大学・准教授）
 『贈与』と『文』：柄谷の「帝国」論を中国思想から読む
 林少陽（東京大学・准教授）
 「歴史叙述と記憶：伝記からみる連鎖と反転の東アジア」
 森岡優紀（京都大学人文科学研究所・特別研究員）

【パネルディスカッション】

「語りの交換・重層・伝播」
 山室信一（京都大学人文科学研究所・教授）
 陳力衛（成城大学・教授）



SHAPE JAPAN

- 【代表者】
 山梨裕美 京都大学野生動物研究センター・特定助教
- 【メンバー】
 山梨裕美 京都大学野生動物研究センター・特定助教
 橋本（須田）直子 京都大学霊長類研究所・技術職員
 田中正之 京都市動物園・生き物・学び研究センター長
 三家詩織 京都市動物園・動物解説員
 萩原慎太郎 福山市立動物園・学芸員・飼育担当者
 山崎彩夏 多摩動物公園・動物解説員
 小山奈穂 TMバーガー・事務員
 田口勇輝 広島市安佐動物園・飼育担当者

【主な活動場所】京大校内

活動情報

環境エンリッチメント実践型ワークショップ

飼育動物の栄養、行動、福祉を考える

日時 2016年1月30日(土) 9時～17時
 会場 京都市動物園

- 【メンバー】
 山梨裕美 京都大学野生動物研究センター・特定助教
 橋本（須田）直子 京都大学霊長類研究所・技術職員
 田中正之 京都市動物園・生き物・学び研究センター長
 三家詩織 京都市動物園・動物解説員
 萩原慎太郎 福山市立動物園・学芸員・飼育担当者
 山崎彩夏 多摩動物公園・動物解説員
 小山奈穂 TMバーガー・事務員
 田口勇輝 広島市安佐動物園・飼育担当者

ワークショップ概要

「環境エンリッチメント実践型ワークショップ 飼育動物の栄養、行動、福祉を考える」

9:00 開会挨拶 田中正之（京都市動物園）
 9:05 企画説明 山梨裕美（京都大学 野生動物研究センター）
 9:10 講演1「栄養学的観点から環境エンリッチメントを再考する」八代田真人(岐阜大学 応用生物科学部)
 9:45 講演2「日本国内・世界のエンリッチメント事情」
 ①橋本直子（京都大学 霊長類研究所）& 萩原慎太郎（福山市立動物園）
 ②油家謙二（天王寺動物園）
 ③荒井雄太（盛岡市動物公園）
 ④木岡真一（恩賜上野動物園）
 ⑤伴和幸（大牟田市動物園）

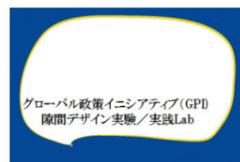
11:00 （休憩）
 11:10 エンリッチメントワークショップ① 計画およびグループディスカッション
 12:00 （昼食休憩）
 13:00 エンリッチメントワークショップ② 作成
 14:00 安全チェックと設置
 14:45 観察
 15:20 観察結果をもとにしたグループディスカッション
 15:40 （休憩）
 15:50 フィードバック ＊各班8分（質疑含む）で班でのエンリッチメントの内容と結果を紹介する
 16:15 講演③「タンザニア・マハレの野生ヒョウウの調査から」大谷ミア（京都大学 野生動物研究センター）
 16:35 まとめ 環境エンリッチメントの評価 山梨裕美（京都大学 野生動物研究センター）
 16:55 おわりのことば 和田晴太郎（京都市動物園）



グローバル政策イニシアティブ (GPI) 隙間デザイン実験／実践 Lab

「隙間」には、レジリエントな社会創りの可能性があるのではないかと、そもそも個人が隙間の発見力、着眼力を高めることが必要ではないかと。社会の「隙間」は、人の中の隙間、あるいは人と人の中にある「隙間」、さらには人と社会の間にある「隙間」に関係しているのでは？ 隙間デザイン実験・実践 Lab メンバーはそんな問いかけをはじめました。これを出発点として 2016 年からは、隙間に関わる多視的な観点を浮き彫りにし、それらを有機的に組み立ててレジリエントな社会創りに繋げるプロセスと、様々な枠を取り払って協働し続けるための場作りを目指します。

- 〔代表者〕
清水美香 京都大学学際融合教育研究推進センター
グローバル生存学大学院連携ユニット・特定准教授
- 〔メンバー〕
清水美香 京都大学学際融合教育研究推進センター
グローバル生存学大学院連携ユニット・特定准教授
八田 孝 一般社団法人
企業間フューチャーセンター・理事
小島あゆみ フリーサイエンスライター
中本亜紀 慶應 SDM 研究所・研究員



〔主な活動場所〕京大校内

活動情報

「隙間」から人と社会の関係性を再発見し、レジリエンスに繋ぐ ～隙間デザイン実験／実践 Lab キックオフワークショップ～

日時 2016年2月13日(土) 13時～17時
会場 trace

- 〔メンバー〕
清水美香 京都大学学際融合教育研究推進センターグローバル生存学大学院連携ユニット・特定准教授
八田 孝 一般社団法人 企業間フューチャーセンター・理事
小島あゆみ フリーサイエンスライター
中本亜紀 慶應 SDM 研究所・研究員



ワークショップ概要

『「隙間」から人と社会の関係性を再発見し、レジリエンスに繋ぐ ～隙間デザイン実験／実践 Lab キックオフワークショップ～』

- 13:00～13:25 インTRODクッション 司会：清水美香
13:25～13:50 I. チームビルディング、「隙間」発想対話 ファシリテーター：中本亜紀
13:50～15:30 II. インスピレーション特別セッション
1. 人と人の中にある「隙間」
ゲスト：山口和也（画家・写真家） モデレーター：八田孝
2. 政策と現場の間にある「隙間」
ゲスト：園田義明（一般社団法人森の防潮堤協会事務局長） モデレーター：清水美香
3. 異なる研究から見える「隙間」
ゲスト：鈴木晶子（京都大学教育学研究科教授）、高林純示（京大大学生態学研究センター教授）
モデレーター：小島あゆみ
15:30～15:45 （休憩）
15:45～16:30 III. チーム対話：「隙間」を有機的に捉えるワークショップ ファシリテーター：中本亜紀
16:30～17:00 クロージング

京都大学の環境・サステナビリティを考える100人会議

京都大学を出発点に、環境・持続可能性について、所属・専門の違いを超えて、意見・アイデアの交換ができる場を！

〔連絡先〕京都大学環境科学センター
TEL：075-753-7700 mail：ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp
〔主な活動場所〕100人会議は毎回変わる場合がありますが、
12/18 18:00～20:00 京都大学吉田キャンパス北部構内 北部食堂 2F
1/22 18:00～20:00 京都大学吉田キャンパス本部構内 総合研究8号館 2F
講義室2 その他、コアメンバーミーティングや個別打ち合わせは、京都大学環境科学センター等にて実施
〔関連情報〕https://www.facebook.com/ 京都大学の環境サステナビリティを考える100人会議 -149579792069899/

〔メッセージ〕
環境問題や解決に関心のある方、持続可能性／サステナビリティについて関心のある方に加えて、何かしら京都大学や地域を巻き込んで面白いことをやりたいと思っておられる方、既に活動されている方、何かしたいと思っておられる方（率直な意見・感想をくださるのも貴重です！）、大歓迎です。いろいろな意見を聞いて、活用頂くこともできると思います。いつからでも、どんな形ででも、ご参加を！

〔代表者〕
浅利美鈴 京都大学環境科学センター・助教
http://eco.kyoto-u.ac.jp/

〔メンバー〕
浅利美鈴 京都大学環境科学センター 助教
間藤 徹 京都大学農学研究所 教授
東條純士 京都大学経済研究所 准教授
小林広英 京都大学地球環境学堂 准教授
川那辺洋 京都大学エネルギー科学研究科 准教授
磯部洋明 京都大学総合生存学館 准教授
吉積日貴 京都大学学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット 特定准教授

藤森 崇 京都大学工学研究科 助教
塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授
酒井伸一 京都大学環境科学センター 教授
平井康宏 京都大学環境科学センター 准教授
中川浩行 京都大学環境科学センター 准教授
矢野順也 京都大学環境科学センター 研究員
★その他、2015年12/9現在、先生方や職員の方、学生・院生の方を含めて102名が登録！



活動情報

京都大学の環境・サステナビリティを考える100人会議 第1回

日時 2015年12月18日 18:00～20:00 会場 京都大学吉田キャンパス北部構内 北部食堂2F

- 〔メンバー〕
浅利美鈴 京都大学環境科学センター・助教
間藤 徹 京都大学大学院農学研究所・教授
東條純士 京都大学経済研究所・教授
小林広英 京都大学大学院地球環境学堂・准教授
川那辺洋 京都大学大学院エネルギー科学研究科・准教授
磯部洋明 京都大学大学院総合生存学館・准教授
吉積日貴 京都大学学際融合教育研究推進センター・特定准教授
酒井伸一 京都大学環境科学センター・教授
平井康宏 京都大学環境科学センター・准教授
矢野順也 京都大学環境科学センター・研究員

ワークショップ概要

「京都大学の環境・サステナビリティを考える100人会議 第1回」

- 18:00 概要説明
18:30 各テーマごとのディスカッション
[1] 全般（ビジョン・計画・アウトプット・調査）
[2] 環境配慮インフラ（建物、省エネ・創エネ、交通）
[3-1] ごみ・3R、節水、購入
[3-2] 食
[4] 安全・健康（アメニティ・植栽、セーフティ、ウェルビーイング、化学物質）
[5-1] コミュニケーション・連携（留学生多い）

京都大学の環境・サステナビリティを考える100人会議 第2回

日時 2016年1月22日 18:00～20:00
会場 京都大学吉田キャンパス本部構内 総合研究8号館2F講義室2

- 〔メンバー〕
浅利美鈴 京都大学環境科学センター・助教
間藤 徹 京都大学大学院農学研究所・教授
東條純士 京都大学経済研究所・教授
小林広英 京都大学大学院地球環境学堂・准教授
川那辺洋 京都大学大学院エネルギー科学研究科・准教授

- 磯部洋明 京都大学大学院総合生存学館・准教授
吉積日貴 京都大学学際融合教育研究推進センター・特定准教授
酒井伸一 京都大学環境科学センター・教授
平井康宏 京都大学環境科学センター・准教授
矢野順也 京都大学環境科学センター・研究員

ワークショップ概要

「京都大学の環境・サステナビリティを考える100人会議 第2回」

第1回会議を踏まえて、活発な議論を行い、これからビジョンやプランの仕上げを進めると同時に、2016年度からの具体的な活動に向けて準備を進める。

- 【議論・結論の一例】
● 京都大学の環境・サステナビリティを考えるにあたっては
短期 2050年（目標設定等は、2030年あたりをまづもって）
中期 2100年
長期 3000年（もっと?）
といった時間軸を念頭に。
● 食班からは…地産地消や旬な食、実践の輪を地域に広げていこう！
まづは北部食堂改造計画⇒全面を畑に?! 常設直売所も。

- ごみ班からは…正しい分別や負荷などが手によくわかる特別ごみ箱を設置！生協の生ごみを学内で堆肥化し（総長堆肥）、食の循環を。まずは実験から。
- CO2・エネルギー
・目標案：CO2排出量（総量）を、2013年比で2030年に26%削減する。
・可視化、京大発トップランナー制度、モデルビルや地域拠点の再エネなどについて、学内の専門家の知恵も活かす形で展開が可能では？
- 地域連携
・Win-winの関係で、地域の産業・教育等と結びついた事業モデルが必要
→ 2016年度は、単位認定にも結びつくような企画を実際に試行していきたい
- 教育
・知的好奇心を刺激するような仕掛けが最も重要、安全教育は必須
→ まずは「京大生に一枚サステナ表（仮）」の作成などから…

これからのオープンサイエンスを探る会

近年のインターネットの急速な発達、アカデミアに「オープンサイエンス」と呼ばれる新たな流れをもたらしている。その恩恵を最も受けている形のひとつが、研究者が市民に向けて研究をオープンにし、資金やマンパワーなど市民の手を借りて市民とともに進める新しい研究スタイルである。しかしながら、こういった新しい概念や試みは研究者の個別の挑戦に留まっており、分野横断的かつ体系的にその可能性と限界を見極め、フィードバックする機会は日本国内にほとんどなかった。そこで、私たちは2016年1月8日にワークショップ「オープンサイエンス革命を活用した研究スタイルの実践と新展開」を企画している。ここでは、オープンサイエンスにアプローチしている多様な研究者を集め、市民とともにオープンサイエンス革命を正しく活用する共通の方法論を描き出すことを目指している。

- 〔代表者〕
 末広 亘 京都大学農学研究科 博士課程
 榎戸輝揚 京都大学 白眉センター / 理学研究科 特定准教授
- 〔メンバー〕
 榎戸輝揚 京都大学 白眉センター / 理学研究科 特定准教授
 末広 亘 京都大学農学研究科 博士課程
 柴藤亮介 アカデミスト株式会社 代表取締役社長



〔連絡先〕 openscience.kyoto@gmail.com
 〔主な活動場所〕 MTRL KYOTO

《メッセージ》
 若手でやる気のある研究者のみならず、一緒にオープンサイエンス革命をどう活用できるのか、そのリアルを感じ、未来と一緒に考えてみませんか？ 科学に興味のある皆さん、研究者と市民の垣根は低くなって、一緒に何かを「つくる」可能性がぐんぐん広がってきています。科学者とともにワクワクできるサイエンスの可能性と一緒に探ってみませんか？

活動情報

どう活かす？ 新しい研究のすすめ方 オープンサイエンス

日時 2016年1月8日(金) 13時～18時
 会場 MTRL KYOTO (<https://mtrl.net/kyoto/>)

- 〔メンバー〕
 榎戸輝揚 京都大学 白眉センター / 理学研究科宇宙物理学教室
 末広 亘 京都大学 農学研究科
 柴藤亮介 アカデミスト株式会社



ワークショップ概要

「どう活かす？ 新しい研究のすすめ方 オープンサイエンス」

- セッション 1 (座長：末広)**
 13:00～13:10 ワークショップ開催の目的
 榎戸輝揚(京都大学白眉センター/理学研究科宇宙物理学教室)
- 13:10～13:15 MTRL KYOTO から一言 森内章(loftwork)
- 13:15～13:40 学術系クラウドファンディングサイト「academist」の挑戦
 柴藤亮介(アカデミスト株式会社)
- 13:40～14:05 雷研究を題材とした学術系クラウドファンディングと市民参加型サイエンス
 湯浅孝行(理化学研究所 仁科センター)
- 14:05～14:30 科学のクラウドファンディング 期待と課題
 横山広美(東京大学 理学系研究科)
- 14:30～14:40 (休憩)
- セッション 2 (座長：榎戸)**
 14:40～15:05 顕微鏡世界のサイエンスコミュニケーションと微生物市民科学の可能性について
 早川昌志(Life is small Project)
- 15:05～15:30 市民と協力した天文学研究：超新星探査の現場から
 田中雅臣(国立天文台)

- 15:30～15:55 アサギマダラのマーキング調査と博物館におけるオープンサイエンス
 金沢至(大阪市立自然史博物館)
- 15:55～16:20 大学からみたオープンサイエンス
 白井哲哉(京都大学学術研究支援室)
- 16:20～16:30 (休憩)
- セッション 3 (座長：柴藤)**
 16:30～16:55 考古学するのは誰か？
 上峯篤史(京都大学白眉センター/人文科学研究科)
- 16:55～17:20 マダラコウライナメクジが日本を変える!?
 宇高寛子(京都大学 理学研究科)
- 17:20～17:45 市民が科学者に資金的に協力する～では「市民」とは誰か？～
 飯田敦夫(京都大学再生医科学研究科)
- 17:45～18:15 みんなで目指す月面探査への道：HAKUTO の挑戦
 中村貴裕/早川和希(HAKUTO)
- 18:15～18:30 まとめとパネルディスカッション(司会：榎戸)
- 18:30～20:00 終了後：ネットワーキング(於 MTRL KYOTO)

日本庭園国際研究会 International Seminar on Japanese Garden

- 〔代表者〕
 柴田昌三 京都大学農学研究科・教授
- 〔メンバー〕
 柴田昌三 京都大学農学研究科・教授
 Catherine Szanto 千葉大学園芸学研究所・博士研究員 / ENSA Paris-La Villette, France・研究員
 熊倉早苗 植彌加藤造園株式会社・ランドスケープデザイナー
 張 平星 京都大学農学研究科・博士後期課程



〔主な活動場所〕 京都大学農学研究科 環境デザイン学研究室

活動情報

In and around the Japanese garden:

～ proposal for an intercultural and interdisciplinary dialogue ～

日時 2015年12月19日(土) 13時～17時
 会場 京都大学 清風荘

- 〔メンバー〕
 柴田昌三 京都大学農学研究科・教授
 Catherine Szanto 千葉大学園芸学研究所・博士研究員 / ENSA Paris-La Villette, France・研究員
 熊倉早苗 植彌加藤造園株式会社・ランドスケープデザイナー
 張 平星 京都大学農学研究科・博士後期課程

ワークショップ概要

「In and around the Japanese garden:

～ proposal for an intercultural and interdisciplinary dialogue ～」

- 13:00～13:45 Introduction,
 Visit of Seifuso garden
- 13:45～14:45 Presentations + questions
- 14:45～15:00 Coffee break
- 15:00～16:00 Presentations + questions
- 16:00～16:45 Discussion
- 16:45～17:00 Concluding remarks



ANSHIN のデザインプロジェクト

“ANSHIN”という価値観の重要性とそれを 含むデザインが社会に波及することを目的に、
論理研究とデザイン実践を両輪とし、学理を創出しようとするプロジェクトです

「ANSHIN のデザインプロジェクト」は、“ANSHIN”
という価値観の重要性とそれを含むデザインが社会に波及することを目的に、論理研究とデザイン
実践を両輪とし、学理を創出しようとするプロジェクトです。

[主な活動場所] 京都大学内
[関連情報] <http://anshin-design.net/index.html>

[代表者]
富田直秀 京都大学大学院工学研究科・教授

[メンバー]
富田直秀 京都大学大学院工学研究科・教授
山内 裕 京都大学経営管理大学院・准教授
松原 厚 京都大学大学院工学研究科・教授
元木 環 京都大学学術情報メディアセンター・助教
森 幹彦 京都大学学術情報メディアセンター・助教
浅川友里江 京都大学学術メディアセンターコンテンツ作製室・非常勤職員
辰巳明久 京都市立芸術大学 美術学部、大学院美術研究科・教授
滝口洋子 京都市立芸術大学 美術学部、美術研究科・教授
藤脇慎吾 京都市立芸術大学 美術学部、美術研究科・非常勤講師/グラフィックデザイナー
舟越一郎 京都市立芸術大学 美術学部・美術研究科・准教授
山口美賀 京都市立芸術大学 非常勤講師 / 公認会計士



活動情報

ANSHIN のデザインセミナー（第4回）

日時 2015年11月27日(金) 16時～18時
会場 京都大学 工学部研究実験棟 1階西北角デザインファブリケーション拠点

[メンバー]
富田直秀 京都大学大学院工学研究科・教授
山内 裕 京都大学経営管理大学院・准教授
松原 厚 京都大学大学院工学研究科・教授
元木 環 京都大学学術情報メディアセンター・助教
森 幹彦 京都大学学術情報メディアセンター・助教
浅川友里江 京都大学学術メディアセンターコンテンツ作製室・非常勤職員
辰巳明久 京都市立芸術大学 美術学部、大学院美術研究科・教授
滝口洋子 京都市立芸術大学 美術学部、美術研究科・教授
藤脇慎吾 京都市立芸術大学 美術学部、美術研究科・非常勤講師/グラフィックデザイナー
舟越一郎 京都市立芸術大学 美術学部・美術研究科・准教授
山口美賀 京都市立芸術大学 非常勤講師 / 公認会計士

ワークショップ概要

「ANSHIN のデザインセミナー（第4回）」

16:00 ANSHIN のデザイン趣旨説明
16:15 話題提供 「自分らしく働くこと～これからのオフィス空間とモノのあり方～」
清水 亨 氏 (コクヨ株ファニチャー事業本部 ものづくり本部アドバイザー/京都造形芸術大学非常勤講師)
17:15 質疑応答、情報交換、ディスカッション

“ボトムアップ型の異分野交流の原点を学び、実践する”委員会

新しい学問はどうやって生まれてくるのか？

新しい学問はどうやって生まれてくるのか？内
なるエネルギーとそれに触発された若者のエネルギーが共振することで自然発生的に生まれる高揚感—ボトムアップ型高揚感と呼ぶ—が大きなエネルギーとなり新たな時代を切り開いていく。

[代表者]
阿形清和 京都大学大学院 理学研究科 教授

[メンバー]
越川滋行 京都大学白眉センター 特定助教
樋口敏広 京都大学白眉センター 特定助教
布施直之 京都大学大学院 生命科学研究科 研究員



[主な活動場所] 京都大学内

活動情報

The Fly Room:

ボトムアップ型の異分野交流の原点を学び、実践する

日時 2015年12月14日(月)
会場 京都大学 吉田北部構内 益川ホール

[メンバー]
阿形清和 京都大学大学院 理学研究科 教授
越川滋行 京都大学白眉センター 特定助教
樋口敏広 京都大学白眉センター 特定助教
布施直之 京都大学大学院 生命科学研究科 研究員

ワークショップ概要

「実験科学のスピリッツ」

第1部 ワークショップ 実験科学の源流を探る (14:00～)
講演：堀田凱樹 (元 情報システム研究機構長)
広海 健 (国立遺伝学研究所 URA 室長)
阿形清和 (京都大学教授)

第2部 映画「The Fly Room」上映会 (16:30～)
ALexis Gambis 監督 登壇
ディスカッション「異分野交流による科学のイノベーション」

今回の企画では、まずはファシリテーションとして科学映画を使う点、第二点は分野に所属される前の学生を対象に仕掛ける点（急がば回れで長期的ビジョンに立って仕込む）である。すなわち、まだ学問分野とかが固定されていない学生や幅広い分野の参加者を集めるために魅力的な科学映画を「仕掛け」に使い、講演と科学映画通じて〈ボトムアップ型高揚感〉を体験してもらい、実体験したいという気にさせることが本企画の目的である。The Fly Room（ハ工部屋）は、まさにボトブアップ型の高揚感を生み出した歴史的空間であり、異分野交流の原点とも言える場所である。遺伝子の実体もまだわからなかった1900年代初頭に、トーマス・ハント・モーガンは、ショウジョウバエを用いた遺伝学を開始する。その内なるエネルギーが物理学や医学を目指していた若者たちを『ハ工部屋』に引き寄せ、ニューヨークの街で空の牛乳瓶がなくなる事件が起きる。彼らは、次々とハ工の突然変異体を単離しては個別に牛乳瓶で飼育し、遺伝子の実体もわからない時に〈遺伝子地図〉を作成した。その結果、1933年にモーガンはノーベル賞を獲り、このハ工部屋を起源として、放射線による人為突然変異に成功したマラーや1 遺伝子1 酵素説のビードルなど、実に7名ものノーベル賞学者が生まれた。本企画によって、学生・大学院生・若手研究者に、ボトムアップ型の異分野

交流のスピリッツと、そこから生まれる高揚感を体験してもらい、京大が持つ潜在的なエネルギーを活性化できればと思っている。いろいろな分野の学生・院生・若手研究者が参加してもらわないことには話にならないので、〈客〉を呼び寄せる「仕掛け」として、講演だけでなく1900年代初頭のハ工部屋を忠実に再現した映画『The Fly Room』を上映する。そして、本映画の関係者の講演とともに、参加した〈聴衆〉と講演者・映画監督を含めたディスカッションによって、今後の「仕掛け」についても議論したい。『The Fly Room』は、ショウジョウバエ遺伝学の祖でありプラナリア再生研究でも業績のあるトマス・ハント・モーガン（1933年ノーベル医学生理学賞）の研究室の様子を、当時学生だったカルバン・ブリッジスの娘の視点から描いたものである。モーガンの研究室は、物理学者や化学者も巻き込みながら遺伝学の原理を解き明かした梁山泊であり、その後ノーベル賞を受賞するハーマン・マラー（1946年受賞）やジャック・モノー（1965年受賞）など、数々の逸材を輩出した。本作品は、生物学者のみならず科学史家からも評価が高く、様々な分野の研究者を広く集めるための「仕掛け」としては秀逸なものと呼びかけている。

移民の社会統合

本グループは日本語教育支援を必要とする生徒の学習支援を行う学生、研究者から構成されている。

人の国際移動が盛んになるにつれ、日本でも日本語を十分に解しない児童や生徒が増大している。移民の多くは日本国籍をすでに取得していたり、父親が日本人であるなど、日本にルーツを持つものが多い。こうした人々を支援することは人口減少社会においてますます重要となるであろう。移民に対する支援は次世代を担う人々の社会統合を考えるうえで重要である。本グループは移民に対する日本語支援のほかに、フィリピン政府在外フィリピン人委員会における日本の状況報告会の開催、フィリピン政府職員との招聘と日本の現状視察、セミナーの開催などを行っている。

〔代表者〕
安里和晃 京都大学大学院文学研究科特定准教授
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/
events_news/department/gakusai/news/
2014/141205_



〔メンバー〕
辻本登志子 京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット研究員
吉田絵弥 京都大学大学院文学研究科修士課程
伊藤志穂 京都大学大学院文学研究科修士課程
額田聖菜 京都大学大学院文学研究科修士課程
山脇真由 京都大学文学部学生
丹羽功貴 京都大学文学部学生

〔連絡先〕
asatowako@gmail.com
〔主な活動場所〕
京都大学大学院文学研究科

活動情報

国際結婚と2世の社会包摂に関する連続セミナー「国際結婚と子どもの社会包摂—愛・ケア・労働」

日時 2015年2月8日(日)、2月9日(月)、2月10日(火)
会場 2月8日(日) 京都大学文学部新館 地下大会議室
2月9日(月) 京都大学吉田泉殿
2月10日(火) 京都市内中学校

〔メンバー〕
辻本登志子 京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット研究員
吉田絵弥 京都大学大学院文学研究科修士課程
伊藤志穂 京都大学大学院文学研究科修士課程
額田聖菜 京都大学大学院文学研究科修士課程 その他外部より総計20名

ワークショップ概要

『国際結婚と2世の社会包摂に関する連続セミナー「国際結婚と子どもの社会包摂—愛・ケア・労働」』

2月8日(日)
13:00 概要説明 安里和晃(京都大学文学研究科/特定准教授)
13:10 報告1 中山美紀子(京都市立春日丘中学校/講師)
14:40 ディスカッション
Allan Paul Ducusin(フィリピン政府在外フィリピン人委員会/移民サービス担当官II)
中山美紀子(京都市立春日丘中学校/講師)
15:10 報告2 雨笠雅克(太田国際介護アカデミー株式会社/代表取締役)
16:40 ディスカッション
Janet ramos(フィリピン政府在外フィリピン人委員会/移民サービス担当官II)
雨笠雅克(太田国際介護アカデミー株式会社/代表取締役)
17:10 〈終了〉

2月9日(月)
13:00 概要説明 安里和晃(京都大学文学研究科/特定准教授)
13:10 報告1 Allan Paul Ducusin(フィリピン政府在外フィリピン人委員会/移民サービス担当官II)
ディスカッション
15:10 報告2 Janet ramos(フィリピン政府在外フィリピン人委員会/移民サービス担当官II)
ディスカッション
17:10 〈終了〉



多様な方々に登壇していただき、多方面から在日フィリピン人に対する理解を促進することができた。
2月8日 中学校日本語支援教員(中学校におけるフィリピン系生徒の現状)と元ブローカーによるセミナーを開催した。また、外国人向けの介護系学校についてのレクチャーもいただいた。ブローカーに関する話はほとんど聞く機会のないものであり、強い刺激を頂くと同時に問題の根深さを痛感した。
9日 フィリピン政府在外フィリピン人委員会の人身売買担当職員と渡航前研修担当職員によるセミナーを実施し、フィリピンにおける移民の実態や、政策について報告。さらに人身売買の実態について報告を頂く。
10日 フィリピン政府職員とともに京都市内中学校訪問。授業見学後、生徒たちと面会。生徒の日本における生活の本音などについて語り合う。その後意見交換を実施した。

*ワークショップ開催で得たもの

ワークショップを通じて、学習支援以外のことについて多くを学習した。たとえばフィリピン系移民の背景、ブローカーの仕組み、就労上の問題点について、である。また国際交流センター、ブローカー、職業訓練学校、フィリピン政府職員とのつながりができたことは今後の取り組みを考えるうえで大いに生かされることになると思う。

*今後の展望

今後は、5月ごろに父親を日本人とする、フィリピン在住の子どもたちを招聘して劇を公演してもらおう予定である。8月ごろにはフィリピン研究会全国大会において、ワークショップの知見などを活かして報告を行う。また、フィリピン研修を2015年8月か2016年2月ごろに実施し、学習支援の経験やワークショップの知見を、フィリピン政府で報告する予定である。日本での経験をフィリピンで生かすことが、この問題を考える根本的な取り組みの1つとなるであろう。

*ワークショップを開催しての感想・メッセージ

学習支援に従事すると、その範囲でしか考えることができなくなる傾向がある。しかし、こういったワークショップを通じて多分野が交流できる機会があると、移民の抱える問題も大きく異なって見える。また、学習支援の実施は重要だが、現象に対応するだけの対症療法になってしまうので、それだけではなく、根本的な解決に向けての行動と計画、また構造を正しく認識するための学問の領域で理解することが今後必要であることを認識した。

日系介護移民の社会包摂に関する連続セミナー：何が包摂を阻むのか 1

日時 2016年1月26日(火)
会場 京都大学 文学研究科新館 5階社会学共同研究室

〔メンバー〕
安里和晃 京都大学文学研究科 社会学専修/特定准教授
大森弘子 佛教大学社会福祉学部
吉田絵弥 京都大学文学研究科 修士課程

ワークショップ概要

「日比国際結婚の現状と課題 1」

日本とフィリピンでは多くの国際結婚が誕生した。ところが、国際結婚は送り出し側から見ると様々な問題をはらむものであった。業者を通じた結婚や偽装結婚。最近では介護に従事させるための新日系人の問題などさまざまである。セミナーでは具体的な事例をあげつつ、日本やフィリピンが抱える結婚の現状について取り上げる。

12:30 ~ 趣旨説明/安里和晃(京都大学文学研究科/特定准教授)
12:45 ~ 講演1: Azucena B.Magana
(フィリピン政府在外フィリピン人委員会職員)
13:15 ~ 講演2: Mia Abrenica Bisa
(フィリピン政府在外フィリピン人委員会職員)
14:00 ~ ディスカッション

日系介護移民の社会包摂に関する連続セミナー：何が包摂を阻むのか 2

日時 2016年2月9日(火)
会場 京都大学 吉田泉殿 1階セミナー室

ワークショップ概要

「日比国際結婚の現状と課題 2」

新日系人が増加した背景には、多くのフィリピン人女性が興業ビザで入国したことがある。これは国の政策の下、実施されたものである。今回はどのようなシステムで多くの女性が来日し、日本社会に定着し、多くが介護に従事するようになったのか、経緯について再検討する。

14:00 ~ 趣旨説明/安里和晃(京都大学文学研究科/特定准教授)
14:15 ~ 講演1/雨笠雅克(太田国際介護アカデミー株式会社 代表取締役)
15:00 ~ 講演2/酒井クリセルダ(特別養護老人ホーム 向日葵 介護職員)
15:45 ~ ディスカッション

日系介護移民の社会包摂に関する連続セミナー：何が包摂を阻むのか 3

日時 2016年3月28日(月)
会場 京都大学 文学研究科新館5階 社会学共同研究室

ワークショップ概要

「日比国際結婚の現状と課題 3」

1980年代から多くのフィリピン人女性が来日しているが、日本人との間に数万人の子が誕生したといわれる。ところが、多くの場合、日本人男性が母子を放棄した事例がみられ、母子の集団が形成された。こうした母子が、最近斡旋ブローカーの手引きで日本に戻り始めているが、母親や介護施設に勤めていることが多く、子は学校に通っている場合が多いものの、社会にうまく包摂されず新たな集団が日本で形成されようとしている。今回は児童福祉の視点から移民問題について考える。

13:30 ~ 趣旨説明/安里和晃(京都大学文学研究科/特定准教授)
14:00 ~ 講演/須田健太郎「児童福祉と移民」
(社会福祉法人さざなみ学園 ケアワーカー)
14:30 ~ 演習・ディスカッション(講演者・一般参加者による)
内田晴子(京都文教大学・移民専門)
大森弘子(佛教大学社会福祉学部・保育専門)

ドローンフィールドサイエンス活用研究会

ドローンがフィールドサイエンス全般を一変しうる

ドローンを用いてフィールドサイエンスの研究基盤を拡張する

[代表者] 益田 岳 京都大学 地球環境学堂 / 特定研究員

[メンバー] 渡辺一生 総合地球環境学研究所 / プロジェクト研究員

[主な活動場所] 京大校内
[関連情報] <http://www.chikyu.ac.jp/publicity/events/etc/2015/1120-21.html>



活動情報

ドローンのフィールドサイエンス活用研究と強化実習 (第2回ドローンフィールド科学活用研究会)

日時 2015年11月20日(金)～11月21日(土)
会場 京都大学上賀茂試験地

[メンバー] 益田 岳 京都大学地球環境学堂・特定研究員
渡辺一生 総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員

ワークショップ概要

「ドローンのフィールドサイエンス活用研究と強化実習(第2回ドローンフィールド科学活用研究会)」

11月20日(金)

13:00～13:10 趣旨説明

13:10～14:10 「ドローン With 防水 & サーモグラフィーおよび各国の法制度とドローン墜落要因について」 益田岳(京都大学)

14:10～14:50 「文化財保護におけるドローンの役割」 金田明大(奈良文化財研究所)

14:50～15:10 休憩

15:10～16:10 「日本のドローン産業と法制度」 奥村周也(SkyLink Japan 社)

16:10～17:10 ライトニングトーク

- 〇「農作物病害虫診断(構想)」 岡留和伸(京都府農林水産技術センター 農林センター)
- 〇「アイガモロボットプロジェクト紹介」 竹村真人(フリーランス)
- 〇「ドローンを使用した時に経験した想定外のトラブルあれこれ」 渡辺一生(地球研)
- 〇「ドローンを使った森林生物調査」 木村一也(石川県森林組合連合会)
- 〇「吸血-休息-産卵 マラリア媒介蚊の行動研究とドローン」 中澤秀介(長崎大学熱帯医学研究所)
- 〇「ドローンの河川調査への活用」 丹羽英之(京都学園大学)
- 〇「熱帯泥炭火災由来の煙の大気化学をドローンで調べる」 伊藤雅之(京大東南研)

17:10～18:00 質疑応答・総合討論

18:30～ 懇親会

11月21日(土)

9:00～17:00 実習 & 実演

- 〇 オートパイロット機能を使った写真測量
- 〇 マニュアルモードでのドローン操縦
- 〇 サーモグラフィーカメラによる地上観測
- 〇 各研究者のドローン紹介とデモフライトなど



科学技術に踏み込む人文・社会科学

細分化・断片化 / 学際化・総合科学化する科学技術を大局的・俯瞰的視座から捉え直し、「新たな学際領域としての〈メタ科学〉の構築」といった、新たな価値を創造することを目指したリサーチグループです。

[代表者] 菅原裕輝 京都大学文学部・非常勤講師
<http://researchmap.jp/yukisugawara/>

[メンバー] 中尾 央 山口大学国際総合科学部・助教
丸山善宏 京都大学白眉センター / 文学研究科・助教

[連絡先] 菅原裕輝(国立循環器病研究センター)
[主な活動場所] 京都大学文学研究科7階現代文化学系共同研究室2、あるいは、オンライン(Skype, Google Hangouts)



活動情報

学際研究の原理

日時 2015年3月10日
会場 京都大学理学部セミナーハウス

[メンバー] 菅原裕輝 京都大学文学部・非常勤講師
伊勢田哲治 京都大学文学研究科・准教授
丸山善宏 京都大学白眉センター / 文学研究科・助教

ワークショップ概要

日本で実際に学際研究を行ってきた研究者および日本で学際研究の原理について考えてきた研究者を集め、学際研究の原理(異なる知識体系をもつ研究者同士がどのようにしたら協働できるか)について、それぞれの講演者もつ異なる経験・知識に基づいて情報提供してもらい、それらを統合的原理としてまとめあげる。

開催報告

13:00 趣旨説明 菅原裕輝(日本学術振興会・京都大学 / 科学哲学)

第I部 原理の収集(実践)

13:10 (A-1) 藤田耕司(京都大学人間・環境学研究科 / 生物言語学・進化言語学)

13:30 (A-2) 丸山善宏(オックスフォード大学 / 圏論)

13:50 (B-1) 小山虎(大阪大学大学院人間科学研究科 / 分析哲学・ロボット工学の哲学)

14:10 (C-1) 平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザインセンター / 科学技術社会論)

第II部 原理の収集(分析)

14:40 (D-1) 藤垣裕子(東京大学総合文化研究科 / 科学技術社会論)

15:00 (D-2) 伊勢田哲治(京都大学文学研究科 / 科学哲学)

15:40 (E-1) 佐倉統(東京大学大学院情報学環 / 科学技術社会論)

16:00 (E-2) 宮野公樹(京都大学学際融合教育研究推進センター / 学際研究の研究)

第III部 原理の総合

16:30 統合案の提示 菅原裕輝(日本学術振興会・京都大学 / 科学哲学)

16:40 統合的原理の確立に向けた全体討論



チーム“GANTT”

文理融合複数教員による出前授業を通じて、「宇宙」を目指す研究者集団です

高度情報化・知識社会と呼ばれ、複雑化を極め続ける現代において、コミュニケーションの重要性は増すばかりです。さらにグローバル化社会の到来は一見すると地理的な距離を縮めていますが、実はコミュニケーションをとるために必要な文明・文化的コンテキストの「共有量」に大きな隔たりを形成しています。そこで、文化・文明コンテキスト共有ゼロの対象＝アイデア・デバイス「宇宙人」に対して、人類の英知（学問）を伝える意味・技法の理想を追求すべく、私達チーム GANTT が結成されました（2013年）。文系・理系あるいは学問の専門分野という枠を取り払い、複雑な社会問題や自然科学的テーマをどう伝え、どう共有するか？ 複数教員による出前講義等の実践的活動を通して、文理融合授業の可能性や複合問題の解決方法を探っています。

- 【代表者】
 常見俊直 京都大学理学研究科・講師
- 【メンバー】
 常見俊直 京都大学理学研究科・講師
 後藤忠徳 京都大学工学研究科・准教授
 安藤哲郎 滋賀大学教育学部・講師
 内藤啓貴 京都大学農学研究科・大学院生
 山口智輝 古川黎明高校・教諭
 神 良輔 宮城水産高校・教諭



- 【連絡先】 info-gantt@cr.sci.kyoto-u.ac.jp
 【主な活動場所】 京都大学理学研究科社会交流室（吉田北部キャンパス）
 【関連情報】 チーム GANTT ホームページ <http://gantt.jp.org/>

《メッセージ》
 複雑かつ高度化した社会問題を考えるキッカケを、学生や子供たちに与えるためにはどうすればよいか？ 私達チーム GANTT は現在、複数教員や専門家が同時に教壇に立ち、チームでの講義を行なう「文理融合授業」を実践中です。“お笑い”で癒えれば、ピン芸人ではなくコンビ芸人を目指しています。数名の先生がただ喋っているだけ、とあなどるなかれ。そこにはコンビ芸人ならではの広がりがあり、教える側・教わる側にとってたくさんメリットがあります。私達の活動は方法論に留まりません。GANTT = Give Attractive kNnowledge with Team Talk、すなわち多様なテーマや問題の本質を面白くマジメに魅力的に考えていきます。小中高校からの出前授業のご依頼や、文系・理系が入り混じった議論の場や一般講演会などをより盛り上げたいと思っている研究者の方のご参加をお待ちいたしております。

活動情報

宇宙の彼方でも伝わる文理融合コミュニケーションを目指して ～京都を伝える授業作りから～

日時 2014年2月24日(月) 18:30～20:30
 会場 京都大学 理学研究科セミナーハウス

- 【メンバー】
 常見俊直 京都大学理学研究科 講師
 後藤忠徳 京都大学工学研究科 准教授
 安藤哲郎 京都大学人間・環境学研究科 助教
 内藤啓貴 京都大学農学研究科 大学院生

ワークショップ概要

京都を伝えることをテーマに、文系・理系の垣根を越えて集まった4名のチームによる出前授業（平成26年3月に宮城県の高校にて実施）の例を元に、高大連携、教育、コミュニケーション、学際融合などについて一緒に考えます。

ワークショップ「実践を通じた文理融合授業」 ～コンビ芸のみがき方（仮）～

日時 2015年3月14日(土) 13:00～16:00
 会場 京都大学 理学研究科セミナーハウス

- 【メンバー】
 常見俊直 京都大学理学研究科 神 良輔 宮城水産高校
 後藤忠徳 京都大学工学研究科 山口智輝 古川黎明高校
 安藤哲郎 滋賀大学教育学部 加納 圭 滋賀大学教育学部
 内藤啓貴 京都大学農学研究科

ワークショップ概要

- ・複数教員による出前授業の概要の紹介
- ・実際に複数の研究者でペアになり、融合授業のレジメを作成

学際教育の原理：メタ科学の学際化へ向けて

日時 2016年3月6日(日)13時～17時30分
 会場 京都大学 益川ホール
 （北部構内 教育総合研究教育棟）

- 【メンバー】
 菅原裕輝 京都大学
 中尾 央 山口大学

ワークショップ概要

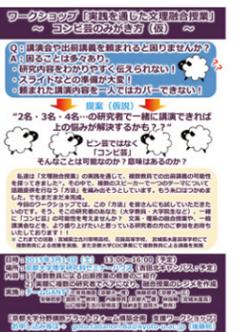
科学技術社会論や科学哲学、科学技術史、科学技術政策、科学技術倫理、科学計量学、科学コミュニケーション、科学人類学といった、科学技術の実践とその背後にある知識体系について人文・社会科学の観点から分析・考証する学問分野及び研究領域（ここでは「メタ科学」と総称する）は、ワーキング・サイエンティストが十分に扱えていない歴史・概念・社会・政策・倫理・コミュニケーションなどといった、科学技術における価値を巡る問題領域に対して専門性を持って考究を深められる点において、科学技術の健全な発展に寄与しようと考えられてきています。しかしながらその一方で、メタ科学の営みは細分化しており、生産される知も断片化（知の連環を喪失）している傾向があり、メタ科学自体の学際化を推進しようとする動きも研究者個人・研究グループ・学会のレベルで徐々に起きています。本シンポジウムでは、メタ科学の学際化を進めるための試みとして、「学際的なメタ科学人材をどのように育成するか」について、学際教育の観点及びメタ科学各分野の現状の観点から再考します。第1部「メタ科学の現状と今後のビジョン」では、メタ科学の研究及び教育に従事する研究者（標葉隆馬氏、中村征樹氏、中尾央氏、林隆之氏）を招き、メタ科学の存在意義を個別の学問分野・研究領域ごとに再考したうえで、各分野の課題と今後の見通しについて話して頂きます。第2部「パネルディスカッション」では、同じくメタ科学の研究及び教育に従事する研究者（伊勢田哲治氏、伊藤憲二氏）を招き、メタ科学の学際化へ向けた具体的方向性について討論することを通して、多様な学問分野・研究領域の研究者が入り交じる学際領域を整備して行きます。

- 対象：学際教育に関心のある研究者・教育者・大学職員、科学技術社会論・科学哲学・科学史・科学技術政策・科学技術倫理・科学計量学・科学人類学・科学コミュニケーションなど「メタ科学」に従事する研究者
- 定員：100名
- 参加費無料／事前申込制 (<http://goo.gl/forms/68MbK3WZi9>) / 途中参加・途中退出自由
- 懇親会：参加希望者は、3月5日(土)18時迄に、企画運営者 (sugawara@ncvc.go.jp) までご連絡下さい。



プログラム

- 13:00～13:10 菅原裕輝(京都大学)
 趣旨説明【科学哲学】
- 第1部：メタ科学各分野における学際教育の現状と今後のビジョン**
 13:10～13:50 標葉隆馬(成城大学)【科学技術社会論】
 ＊ショート・ブレイク 5分(質問付箋作成・貼付・休憩)＊
 13:55～14:25 中村征樹(大阪大学)【科学技術史・研究倫理】
 ＊ブレイク 10分(質問付箋作成・貼付・休憩)＊
 14:35～15:15 中尾 央(山口大学)【科学哲学】
 ＊ショート・ブレイク 5分(質問付箋作成・貼付・休憩)＊
 15:20～15:50 林隆之(独立行政法人大学評価・学位授与機構)
 【科学計量学・科学技術政策】
 ＊ブレイク 10分(質問付箋作成・貼付・休憩)＊
- 第2部：パネル・ディスカッション**
 16:00～17:30 パネル・ディスカッション
 パネリスト：伊勢田哲治(京都大学)、
 伊藤憲二(総合研究大学院大学)、
 標葉隆馬、中村征樹、中尾 央、林隆之
 司会：菅原裕輝
- 16:00～16:15 コメント(伊勢田哲治)
 16:15～16:30 コメント(伊藤憲二)
 16:30～16:45 コメント及び質問付箋に対する登壇者の応答
 16:45～17:00 フロアからの質問と登壇者の応答
 ＊ショート・ブレイク 5分＊
 17:05～17:20 議論の整理
 17:20～17:30 全体の締め(菅原裕輝)



セックスワークセミナー

セクシュアリティ全般、および性産業に従事する女性たちの性暴力と人権について考える研究会。

メンバーのフィールドワークは日本のみならずインド、ネパール、英国など世界各地にまたがっており、現在のみなならず、第2次世界大戦期、占領期と広範囲の時期を視野にいれています。さらにメンバーの専門は、文化人類学、社会学、歴史学と分野横断的です。所属大学もいろいろな大学からメンバーとして参加しています。従来のジェンダー研究のなかでも優先度の低い性産業関係の性暴力や人権に特化することで、ジェンダー研究の発展に貢献する研究会です。

〔代表者〕
田中雅一 京都大学人文科学研究所・教授

〔メンバー〕
茶園敏美 京都大学学際融合教育研究推進センター
アジア研究教育ユニット・研究員
他多数。



《メッセージ》
従来のジェンダー研究のなかで優先度の低い性産業で働くひとたちにかかわる性暴力や人権に特化することで、ジェンダー研究の発展に貢献する研究会です。この研究会自体をセミクロードのかたちで運営し、メンバー情報をオープンにできない状況こそ、まさにいま性産業で働くひとたちの尊厳が、そうでないひとたちの尊厳に比べて厳しい状況におかれていることを物語っています。メンバーを常時募集しています（この分野の研究をなさっている方ごなでも）。一緒に考えてみませんか？メンバー一同お待ちしております！

活動情報

占領期日本におけるパンパンをめぐって —ジェンダーの視点から平和について考えよう—

日時 2014年12月7日
会場 京都市堺町画廊

〔メンバー〕 報告者順に記載

深田 卓 編集者／インパクト出版会・代表（報告者1）
茶園敏美 セクシュアリティ、占領期性病対策研究／
京都大学学際融合教育研究推進センター アジア研究教育ユニット・研究員（報告者2）
三橋順子 性社会・文化史研究者／明治大学、都留文科大学非常勤講師（報告者3）
西川祐子 文学・女性史研究／元京都文教大学教授（報告者4）
田中雅一 京都大学人文科学研究所・教授（司会）

ワークショップ概要

本企画では第2次世界大戦後の占領期日本にフォーカスし、パンパンといわれる、GI（米兵）相手の街娼への人権侵害のみならず、GHQ（連合国軍総司令部）の占領政策にかかわって、4名の報告者を軸にジェンダーの視点から平和について考察を深めることで、あらゆるかたがたに占領地女性の人権について関心を示していただくことが目的でした。そのため本企画では一般のかたがたに気軽に参加していただきたいという目的のもと、あえて学外のイベントスペースを研究会の会場としました。その結果、当日は研究者や学生のみならず、大勢のひとたちが集まり活発な議論ができました。

開催報告

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

本企画を通じて、占領期の暴力は占領期の特殊な話ではないということや、占領期の性暴力を被っているに沈黙されているかたがたの尊厳回復への重要性を再確認しました。本企画は、今度は韓国、フィリピン、ドイツ、オーストリアといった海外の占領期ジェンダー研究者との人的ネットワークを構築し共同研究をおこなうために必要な企画となりました。ありがとうございます。

ワークショップで得たもの

本企画の成果を発展的に継続した研究会を、2015年1月24日に一橋大学ジェンダーセンターの研究者平井和子さんをお招きして茶園とのW（ダブル）報告会を京都大学でおこないました。この報告会は、2014年11月21日一橋大学ジェンダー研究センターで開催されたW報告会（茶園招聘）と本企画を踏まえた研究会です。この結果、本学を拠点とした学際的な発信に寄与でき、さらにセクシュアリティ研究にかかわる人的ネットワークもできました。



「誰かのために」 知の横断プロジェクト！

「誰かのためにやったほうがいと頭ではわかっているが、行動に移せない」について多視点で考えます。

「誰かのためにやったほうがいいこと」と聞いて、何を思い浮かべますか？ ゴミの分別、席を譲ること、募金…例えば医療現場では、年間2,000人以上が臓器移植を待ちながら亡くなっています。日頃より臓器提供について考え、意思表示という行動を実施していれば誰かを助けることができますよね。また、年間約7万人が心臓突然死で亡くなっていますが、倒れた人のそばにいた人によって胸骨圧迫が行われるのは100件中30件程度です。このように「誰かのためにやったほうがいい」とわかりつつも、一歩をなかなか踏み出せないことが多数あります。これはいったいどのような理由なのでしょう？そして、どうしたら踏み出せるのでしょうか？本グループでは、様々な分野の専門家の知に触れ、その要因を追求します。誰かのために行動する普遍的なメカニズムと一歩を促す方策について、垣根を取り払って皆で考えていきたいと思います。



〔代表者〕
瓜生原葉子 京都大学学際融合教育研究推進センター
政策のための科学ユニット 特定助教
西山知佳 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学 特定助教

〔メンバー〕
瓜生原葉子 京都大学学際融合教育研究推進センター
政策のための科学ユニット 特定助教
西山知佳 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 特定助教

活動情報

「誰かのために」 知の横断プロジェクト！

日時 2014年3月6日
会場 京都大学 国際交流セミナーハウス「j-pod」

ワークショップ概要

「誰かのためにやったほうがいい」とわかりつつも、一歩を踏み出せない。これはいったいどのような理由なのでしょう？どうしたら踏み出せるのでしょうか？利他行動の進化、認知バイアスの構造と機能をご専門にされている名古屋工業大学 大学院工学研究科 小田 亮准教授をお招きして、講演をしていただき参加者全員で「どうしたら踏み出せるのか？」についてグループディスカッションを行いました。さらに、胸骨圧迫とAEDの使い方講習会も行いました！

開催報告

今後の展望

今後、行動変容ステージの「態度→行動」に影響を及ぼす因子を考える理論枠組みを、多様な学問分野から探し、年1回のペースでワークショップを開催したいと考えています。「PUSHプロジェクト(救命)」、「誰かのために—Share Your Value Project (臓器提供)」で各々が活動し、互いの成果報告、ならびに新しい枠組みによる討論を含めたワークショップを想定しております。資金調達に関しては、社会貢献事業および地域活動に対する助成金に応募したいと考えております。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

背中合わせて働き始めて9か月、互いの研究に共通性があることを感じ、一緒に取り組むことができないだろうか考えた企画でした。共通性を深く考えることにより、異なる行動の普遍化ができ、行動変容、利他的行動というkey wordを見出すことができました。そして、私たちが目指している研究のゴールに近づくためには、既存の学問分野を超え、学際的な接近が必要なことも再認識しました。実施支援があったからこそ生まれた企画であり、支援のしほみを考え実行して下さった、学際センターに心より感謝申し上げます。

ワークショップで得たもの

2つのものを得ました。1点目は、救命と臓器提供の親和性の高さを確認できたことです。勇気を出して心臓マッサージを行いAEDを使うこと、臓器提供について考え意思表示を行うことは、「誰かのためにやったほうがいいと頭ではわかっているが行動に移せないこと」と定義し得ると確認でき、共通の分析枠組みを導出できました。2点目は、新しい学問分野へ視野が拡大したことです。小田亮先生を見出し、人間行動進化学の視座で考察する機会を得たことで研究に広がりが増しました。



現代台湾の地域研究

台湾理解を見直す

台湾とは何か。このグループでは、台湾をより良く理解するためのふさわしいキーワードを、新たに浮かび上がらせようと考えています。

【代表者】
若松大祐 WAKAMATSU, Daisuke
京都大学アジア研究教育ユニット (KUASU)・研究員
http://researchmap.jp/dwakamatsu

【メンバー】
募集中



【連絡先】若松 大祐 dwakamatsu@yahoo.co.jp
【主な活動場所】代表者の所属先など
【関連情報】「台湾を知るための60章」(明石書店) 2016年8月25日刊行
赤松美和子 編著 若松大祐 編著



【メッセージ】
ご関心ある方は、ご連絡なくご連絡いただけますようお願いいたします。

戦後長らく「謎の島」と言われてきた台湾は、21世紀にはグルメツアーや買い物に気軽に行ける海外旅行先にすっかり様変わりしたが、台湾に対する理解はどれだけ進んだらうか。歴史、政治からポップカルチャーに至るまで様々な面から紹介する概説書の決定版。

- 【執筆者一覧】
- 赤松美和子 (あかまつ・みわこ / AKAMATSU, Miwako) 大妻女子大学比較文化学部准教授
 - 家永真幸 (いえなが・まさき / IENAGA, Masaki) 東京医科歯科大学教養部准教授
 - 稲見公仁子 (いなみ・くにこ / INAMI, Kuniko) 台湾影視研究所主宰
 - 王 智明 (おう・ちめい / Wang, Chih-Ming) 中央研究院歐米研究所副研究員
 - 王 傳育 (おう・でんいく / WANG, Chuan-Yu) 台北医学大学医学系小児科学科助教授
 - 大川謙作 (おおかわ・けんさく / OKAWA, Kensaku) 日本大学文理学部准教授
 - 岡崎滋樹 (おかざき・しげき / OKAZAKI, Shigeki) 立命館大学経済学研究所博士課程
 - 岡野翔太 (おかの・しょうた / OKANO, Shota (YEH, Hsiang-tai)) 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程
 - 金丸裕一 (かねまる・ゆういち / KANEMARU, Isaac Yuichi) 立命館大学経済学部教授
 - 北波道子 (きたば・みちこ / KITABA, Michiko) 関西大学経済学部教授
 - 木村 自 (きむら・みづか / KIMURA, Mizuka) 人間文化研究機構特任助教
 - 久木元真吾 (くきもと・しんご / KUKIMOTO, Shingo) 公益財団法人家計経済研究所 次席研究員
 - 呉 孟晋 (くれ・もとゆき / KURE, Motoyuki) 京都国立博物館学芸部主任研究員
 - 黒羽夏彦 (くろは・なつひこ / KUROHA, Natsuhiko) 国立成功大学文學院歴史系碩士班

- 胡 春惠 (故人) (こ・しゅんけい / HU, Chuen Huey) 香港珠海学院文学院院长、亚洲研究中心主任
- 菅野敦志 (すがの・あつし / SUGANO, Atsushi) 名桜大学国際学群上級准教授
- 薛 化元 (せつ・かげん / HSUEH, Hua Yuan) 国立政治大学台湾史研究科、歴史学教授
- 田上 智宜 (たのうえ・ともよし / TANOUÉ, Tomoyoshi) 大阪大学大学院言語文化研究科特任助教
- 張 啓雄 (ちやう・けいゆう / CHANG, Chi-hsiung) 中央研究院近代史研究所兼任研究員
- 陳 威志 (ちん・いし / 台) DAN, Wei-chi) 一橋大学社会学部研究科博士後期課程
- 原 正人 (はら・まさと / HARA, Masato) 中央大学法学部准教授
- 松岡 格 (まつおか・たけす / MATSUOKA, Tadasu) 獨協大学国際教養学部准教授
- 村上太輝夫 (むらかみ・たきお / MURAKAMI, Takio) 朝日新聞論説委員
- 百瀬英樹 (ももせ・ひでき / MOMOSE, Hideki) 世新大学日本語学系非常勤講師
- 山崎直也 (やまざき・なおや / YAMAZAKI, Naoya) 帝京大学外国語学部准教授
- 横田祥子 (よこた・さちこ / YOKOTA, Sachiko) 滋賀県立大学人間文化学部助教
- 劉 靈均 (りゅう・れいこん / LIU, Ariel Ling-chun) 神戸大学人文学部研究科博士後期課程
- 林 怡薏 (りん・いけん / LIN, Christi I-Hsuan) 立教大学社会学部准教授
- 若松大祐 (わかまつ・だいすけ / WAKAMATSU, Daisuke) 常葉大学外国語学部講師

活動情報

台湾理解を見直すためのワークショップ

日時 2014年11月30日(日)
会場 京都大学 吉田キャンパス 吉田泉殿

【メンバー】

赤松美和子	大妻女子大学・准教授	吳 若彤	京都大学・博士課程
大川謙作	東京大学・助教	坂井田夕起子	大阪大学・非常勤講師
太田 淳	広島大学・准教授	高橋祐一	京都府立大学・学部生
岡崎滋樹	立命館大学・博士課程	原 正人	中央大学・准教授
金丸裕一	立命館大学・教授	村上志保	立命館大学・嘱託講師
北波道子	関西大学・准教授	横田祥子	滋賀県立大学・助教
北村由美	京都大学・准教授	若松大祐	京都大学・研究員
木村 自	人間文化機構・助教		

ワークショップ概要

台湾とは何か。そもそも地域研究というものがある特定の地域に関する問題を解決することに始まるのなら、台湾研究は一体どんな問題を解明しようとする学問なのでしょう。この基本的かつ重要な問いをめぐり、あれこれ思索し、答案を模索するのが本ワークショップの目的です。その際、一つの方法として、あえて日台関係、兩岸関係、台米関係を外してみます。すると、これまで見えなかった台湾の姿が見えてくるでしょう。さらに私たちは、その中から、台湾をより良く理解するためのふさわしいキーワードを、新たに浮かび上がらせようと考えています。今回は、5つの議題から、台湾研究が解明しようとしている問題を明示し、問題を解明するための方法を模索します。いわば台湾理解を見直すためのワークショップになります。



NPO 法人日本教育再興連盟 (ROJE)

日本の教育をよりよくするため、教育現場の内から外まで幅広い活動をしている NPO です。

団体設立：2005年10月
法人認証：2007年02月05日 (内閣府所轄)
活動目的：子どもや保護者、教師、そのほか教育関係者に対し、子どもの生活習慣改善、教育実践力向上、優良教育実践の発掘・発表などを行い、子どもの豊かな成長に寄与する。

【代表者】
大塚真優子 立命館大文学部 関西学生事務局長
関連 URL <http://kyouikusaikou.jp/>

【メンバー】
北川哲平 京都大学教育学部
寺島和哉 立命館大学政策科学部
武村有紗 同志社大学社会学部 他、多数



これからの「入試」の話をしよう

【連絡先】 roje.kansai@gmail.com
【主な活動場所】 ROJE 関西オフィス (鳥丸丸太町近く)
【関連情報】【HP】 <http://kyouikusaikou.jp/>
【Twitter】 https://twitter.com/roje_boy 【FB】 <https://www.facebook.com/kansairoje>

活動情報

Talk Cafe ~これからの入試の話をしよう~

日時 2014年2月25日
会場 京都大学 物質-細胞統合システム拠点(iCeMS) 2Fセミナー室

【メンバー】
北川哲平 京都大学教育学部
寺島和哉 立命館大学政策科学部
武村有紗 同志社大学社会学部
他、多数

ワークショップ概要

主に学生・院生の立場から入試改革を考え、入試改革を実行する教育再生実行会議の方と、ざっくばらんに意見交流し、よりよい入試改革とはどのようなものか考える。
現在進められている大学入試改革の内容について、その改革の中心となっている教育再生実行会議の方から直接学び、それを元に、学生としての意見をまとめ、学生という視点から入試改革に切り込む。

開催報告

今後の展望

引き続き、教育に関する様々なテーマでワークショップを開催します。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

学際センターのご協力のおかげで、普段よりも立派な会場でワークショップを行うことができました。また、教育再生実行会議という最前線で教育の議論をされている方々との交流ができたことは、弊団体にとって非常に貴重な経験でした。

ワークショップで得たもの

教育再生実行会議の方とのつながり。学際センターとのつながり。



カポエイラ・アンゴラ国際交流プロジェクト 「ジンガ・インズィンガ Ginga Nzinga」

躍動する身体、ブラジルの伝統芸能。アフリカン・ディアスポラから生まれた、音楽、戦い、踊り。
講演とワークショップを通じた、身体性の再解釈。

世界各国で盛んに行われるブラジルの伝統芸能カポエイラを通して、女性や人種等を巡る人権の問題を考えることを目的とする。その際、人権を考える上で重要な要素である「身体」にも目を向け、身体を通してどのように不公平に対する「抵抗」と「解放」を実現し得るのかを考える。方法としては、ワークショップを通してカポエイラを実践的に学び、講演を通して考察、議論の場を持つ。カポエイラの実践を例に、それが自己のアイデンティティのみならず所属する共同体/コミュニティのアイデンティティの再獲得と再評価にどのように繋がっていくのかを考察する。

【連絡先】 代表者/アンドレア・フロレス・ウルシマ
(京都大学地域研究統合情報センター)
住所：〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46、
京都大学地域研究統合情報センター
mail：andurush[at]cias.kyoto-u.ac.jp
【関連情報】 <http://nzingafotos.tumblr.com/>

【代表者】
アンドレア・フロレス・ウルシマ
京都大学地域研究統合情報センター・研究員
<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/staff/andrea.php>
<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/library/essay/>
都留江美里 京都大学大学院人間環境学 後期博士課程



【メンバー】
アンドレア・フロレス・ウルシマ 京都大学地域研究統合情報センター・研究員
都留江美里 京都大学大学院人間環境学 後期博士課程
王 柳蘭 京都大学白眉プロジェクト・准教授
福田 宏 京都大学地域研究統合情報センター・助教
荒川幸祐 NPO グループ・インズィンガ・委員
永井佳子 NPO グループ・インズィンガ・委員
ホザンジェラ・コスタ・アラウージョ バイア国立大学教育学部・准教授/NPO グループ・インズィンガ・師範
パウラ・バヘット バイア国立大学社会学部・准教授/NPO グループ・インズィンガ・師範
パウロ・バヘット NPO グループ・インズィンガ、サルヴァドール支部長
輪島裕介 大阪大学文学部文学研究科・准教授
ウスビ・サコ 京都精華大学人文学部長・教授
宇野邦一 立教大学現代心理学部・名誉教授

活動情報

「抵抗と解放の身体—ブラジル伝統 芸能『カポエイラ』による対話と実践」

日時 2014年9月12日～14日
会場 京都大学一稲盛財団記念館 (中庭・大会議室)・東山いきいき市民活動センター

【メンバー】
アンドレア・フロレス・ウルシマ 京都大学地域研究統合情報センター・研究員
都留江美里 京都大学・後期博士課程
王 柳蘭 京都大学白眉プロジェクト・准教授
福田 宏 京都大学地域研究統合情報センター・助教
荒川幸祐 NPO グループ・インズィンガ・委員
永井佳子 NPO グループ・インズィンガ・委員
ホザンジェラ・コスタ・アラウージョ バイア国立大学教育学部・准教授/NPO グループ・インズィンガ・師範
パウラ・バヘット バイア国立大学社会学部・准教授/NPO グループ・インズィンガ・師範
パウロ・バヘット NPO グループ・インズィンガ、サルヴァドール支部長
輪島裕介 大阪大学文学部文学研究科・准教授
ウスビ・サコ 京都精華大学人文学部長・教授
宇野邦一 立教大学現代心理学部・名誉教授



ワークショップ概要

京都のシンポジウムは、『カポエイラ・アンゴラ国際交流イベント2014』(2014年9月5日～14日)の一部として実施されています。プログラム全体としては、カポエイラを実践的に学ぶワークショップを計5回、カポエイラの歴史や社会的役割を考察するシンポジウムを東京と京都でそれぞれ開催し、合計で340名の参加者となりました。



開催報告

今後の展望

本企画で、日本で初めて大々的にカポエイラが学術的に取り上げられることとなりました。様々な分野の専門家が集まり、議論する機会となったが、今後は今回の企画を礎に、議論を更に発展させる必要があります。そこから、生活の中での不公平の改善や、より人々が対等な社会を以下に構築していくかを、より具体的に考えていきたい。来年度には企画の結果を出版する予定であります。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

For the organization of this event it was really difficult to find counterparts from varied disciplinary background willing to join in the discussion. We tried to contact specialists from African studies, Sport studies, and Aikido. The reactions varied from an absence of response to the subtle suggestion that Capoeira was not directly related to Africa or that it was not representative of a sport. For the future organization of similar events, I think it would be really interesting to collaborate with specialists from medicine, biologists, or even primatologists. This would eventually contrast some specific cultural traits of the use and perception of the body, closed linked to gender and race, with the understanding of the body as a bio-physiological or natural component of the environment. In any case, it became apparent from the organization of this event that breaking apart with traditional disciplinary frames is still a difficult challenge that requires a lot of effort and preparation.

ワークショップで得たもの

京都で開催された本シンポジウムでは、アフリカや日本も交えたグローバルな視点からカポエイラについて分析が行われました。また、3名の討論者より、フランツ・ファノンに関連するポスト・コロニアル論、ジル・ドゥルーズのマイノリティ論、越境による文化の接触・変容といった様々な視点が提示され、活発な議論が展開されました。本シンポジウムの前後には、聴衆も交えた形でカポエイラが実践されています。

グローバル政策イニシアティブ (GPI)

グローバル政策イニシアティブ (GPI) は、「民が関わる政策活動をより具体化する仕組み創り」を志し、2007年にワシントン DC を拠点に有志の研究者のイニシアティブで設立された政策ネットワークです。

グローバル化と公共政策に焦点を当て、世界各地の個人の研究者・実務家の経験と知識を有機的に体系化し、日本の政策インフラ創り、ひいてはグローバルな政策創出に貢献することをミッションとしています。このイニシアティブ始動に至るまでには、米国ワシントンや日本において約10年間にわたって政策研究者を中心とする異なる担い手による取り組みを通して、百回以上にわたる関連会合やワークショップが行われてきました。その取り組みの火を消さないように、世代を超えて、持続可能な日本の未来に橋渡しし、政策インフラの整備に貢献していきたいと思えます。一人一人できることは限られていますが、既存の枠を超えた協働によって、政策アントレプレナーによる個々のアクションが連動して太い脈となるように、日本の、世界の政策環境のより良い方向性を願い、一歩ずつ取り組みを進めていきます。

【代表者】
共同代表 清水美香 京都大学・助教
共同代表 古賀 慶 南洋工科大学 (シンガポール)・助教
URL：www.gpi-japan.net



【メンバー】
清水美香 共同ディレクター
古賀 慶 共同ディレクター
野呂尚子 アシスタントディレクター
五十嵐千恵 事務局代表
吉田貴之 Web制作・広報
池上雅子 政策エキスパート委員
角南 篤 政策エキスパート委員
田中秀篤 政策エキスパート委員
古川勝久 政策エキスパート委員
渡部恒雄 政策エキスパート委員
小林隼人 フェロー
辻 清人 フェロー
紅谷昇平 フェロー
吉田健太郎 フェロー
小池政就 実行委員
長沼 亜紀 実行委員
野村唯彦 実行委員
磯部龍太郎 インターン
鈴木崇弘 顧問
上野真城子 顧問
唐沢 敬 顧問
小池洋次 顧問

詳細は <http://www.gpi-japan.net/about/category/leadership/> へ。

【連絡先】登録フォーム→ <http://www.gpi-japan.net/inquiry/>
一般お問い合わせ→ info@gpi-japan.net
【主な活動場所】京都、東京、ワシントン DC
【関連情報】 www.gpi-japan.net

活動情報

異空間リトリート：協働知の再創造～レジリエンスから社会イノベーションへの可能性～

日時 2014年3月16日 会場 trace

ワークショップ概要

グローバルに展開してきた研究者・実務家ネットワーク GPI は、国内外で積み重ねてきた政策ワークショップを新しく衣替えし、非日常的空間の中で丸一日全員参加型の「リトリート」を開催します。ここでは、既存の「研究会」形式の型を打ち破り、自由な発想と知の対話をより刺激するスペースとして、京都在住の美術家が新しく創った、制作・発表・人/社会との共有を同時に行いアートシーンの再創造を行うスペース "trace" で実施します。この空間を通じて、異なる知(木)を結びつけ、協働知の創造(森)を形にし、社会イノベーションに繋げるためのモデルづくりを目指します。

今回、リトリート向けに普段私たちが忙しさに紛れてなかなか向き合えないテーマを設けます。リトリートならではのテーマは、協働知の再創造と「レジリエンス(resilience)」。社会問題解決に分野横断的なアプローチの重要性はよく語られますが、それを実現するには意識的に協働で知を創造していく場とプロセスが欠かせません。しかし、日本ではこれを可能にする機会はとても限られているのが現状です。その分野横断的なアプローチに深く結びつくのが「レジリエンス」です。このコンセプトは、2011年3月東日本大震災以降、よく聞きされるものの、私たちの生活や社会を直視した、本質的で包括的な議論は未だ少ない状況にあります。しかし、レジリエンスには、鍵となる視点 ①「木も見て森も見る」視点 ②システム、デザイン、マネジメント思考 ③俯瞰・包括・体系的 ④プロセス重視 ⑤リンケージ(繋がり) ⑥イノベーション) がいくつも内在しており、様々な場面で適用することによって、社会の様々な問題を解決へと導く羅針盤となる可能性を秘めています。

本イベントでは、協働知の再創造を目指すプロセスづくりの一環として、専門・組織などの既存の「枠」を超えて、身近な個人、組織、社会問題・政策がそれぞれどのようにレジリエンスと関係しているのか、また、それぞれの中でどのようにレジリエンスが実現されるかを、具体例を挙げて話し合います。さらに、レジリエンスをいかに社会問題の解決へと結びつけ、さらに社会イノベーションに繋げていくことができるのか、その可能性についても追及します。

開催報告

今後の展望

より具体的なレジリエンスプロジェクトを実施予定。成果はウェブサイトにて公開。様々な助成金に応募。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

このワークショップは、政策とアート、ギャラリーでの開催、政策と現場の連携、「レジリエンス」議論というようにどの点とっても学術界ではある意味異色で、人々の理解が得られの最初は不安材料もあったが、開催してみて「こんな実りのあるワークショップには経験したことがない」といったような参加者からの嬉しい声が聞こえた。

ワークショップで得たもの

☆個々や組織からみた「レジリエンス」について共通の理解のための基盤のようなものを発見できた。
☆異なる分野や経験・バックグラウンドをもつ参加者の知の化学反応を見出すことができた→それぞれの現場にもちかえって日常に活かす素材が生まれた。



生物学をエンジョイしたい若い研究者の会

分野や方法を問わず「面白そうな」生き物の研究を探求する若手研究者の集まりです。

元々は別々に活動する2つの若手勉強会『関西八工倶楽部』『関西おさかな勉強会』の参加者のうち、20～30代の気の合う者同士が集まり、セミナーやイベントで親睦を深めていたことから始まりました。「そろそろ新しいことにチャレンジしたい」と思っていた矢先に、学際融合教育研究推進センターのワークショップ支援を知り、一般公開イベント『医学・生物系研究の実験モデル動物がタイム対決“ムシ vs. サカナ”』を2014年3月に主催しました。その後、小規模なセミナーやレクリエーション企画を経て、2015年9月に再び一般公開イベント（企画中）の開催を計画しています。

〔代表者〕
飯田敦夫 京都大学再生医科学研究所・助教
<http://www.frontier.kyoto-u.ac.jp/rc03/index-j.html#iida>

〔メンバー〕
山川智子 大阪大学理学部・助教
藍原祥子 神戸大学農学部・助教
岡本直樹 理研 CDB・研究員
小沼 健 大阪大学理学部・助教
大澤志津江 京都大学薬学部・講師



〔連絡先〕 飯田敦夫（京都大学再生医科学研究所）
京都市左京区聖護院川原町53
京都大学再生医科学研究所 再生増殖制御学分野
E-mail: atsuo@frontier.kyoto-u.ac.jp
〔主な活動場所〕 関西一円（京都、大阪、神戸など）

《メッセージ》
一緒に“面白い生き物”や“楽しい研究”を探求しませんか？

活動情報

ムシ vs. サカナ

日時 2014年3月15日
会場 京都大学北部総合教育棟「益川ホール」

〔メンバー〕
飯田 敦夫 京都大学再生医科学研究所・助教
山川 智子 大阪大学理学部・助教
藍原 祥子 神戸大学農学部・助教
岡本 直樹 理研 CDB・研究員
他、一般参加者 80 名程度。

ワークショップ概要

近年、iPS細胞やES細胞を用いた再生医療が注目を浴び、それに比例して哺乳類や培養細胞をモデルに用いた研究の社会的な露出が高くなっている。しかし一方で、魚類・鳥類や無脊椎動物など非哺乳類モデル動物を用いた研究からも、医学分野など人類社会に貢献できる優れた成果が数多く得られている。本企画は、数あるモデル動物の中からハエ（ショウジョウバエ）とサカナ（メダカ、ゼブラフィッシュ）をピックアップし、徹底して比較することで、若手研究者が相互理解と交流を深める場の提供を目的として開催された。これまで雑多な研究者が集う「学会」や、特定のモデル動物に限定した「研究会/勉強会」はあっても、異なるモデル動物同士が「1対1」で議論し、お互いを比較する機会は少なく、人的交流や共同研究など、新しい効果を期待したものである。

開催報告

今後の展望

前回のノウハウを生かし、2015年9月に新たな一般公開イベントを同メンバーで企画中である。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

所属する学問分野から任意に演者を集めて「セミナー/研究会」を開催する経験は今までもあったが、明確なコンセプトの元に企画を作るケースは初めてであり、勉強になったと同時にその難しさも実感した。だが、ワークショップ後の交友関係の広がりや、参加者からの「楽しかった」という声をモチベーションとして、これからもできる限りこのような取り組みを継続していきたいと思っている。

ワークショップで得たもの

ワークショップ支援を得て遠方から話題提供者を招聘できたため、これまでの関西地区における手弁当のイベントでは実現できなかった全国のネットワークが構築できつつある。一般公開イベントとして広報したことで、不参加だった研究者にも我々の活動の趣旨が伝わり、出張先や学会等で声をかけられるケースも増えた。



萌える生物学

（第21回 小型魚類研究会サテライト企画）

日時 2015年9月21日（月）
11時開場、12時半講演開始予定
会場 大阪大学吹田キャンパス杏会館

〔メンバー〕
藍原祥子 神戸大学農学部・助教
小沼 健 大阪大学理学部・助教
飯田敦夫 京都大学再生医科学研究所・助教
山川智子 大阪大学理学部・助教
大澤志津江 京都大学薬学部・講師



ワークショップ概要

「萌える生物学 不思議な生物 & 生命現象を調べ尽くす人々」

- 12:30 趣旨説明
- 12:40 池上太朗（琉球大）「魚は湖に合わせた時計を持つのか？」
宇高寛子（京大）「昆虫とナメクジと春夏秋冬」
後藤寛貴（名古屋大）
「すがたがちがうオスとメス クワガタムシの"オオアゴ"のおはなし」
荻野由紀子（基生研）
「真骨魚類の多彩な性的二型"アンドロゲンによるオスの二次性徴」
- 14:40 コーヒーブレイク & ポスターセッション
- 15:30 細 将貴（京大）「追うへび、逃げるカタツムリの右と左の共進化」
高岡勝吉（大阪大）「なぜマウスの左右軸形成に萌えるのか？」
日下部りえ（理研）「四肢のないヤツメウナギから、四肢の進化を考える」
鈴木孝幸（名古屋大）
「脊椎動物における後肢の位置の多様性を生み出す分子メカニズム」
- 17:30 閉会、写真撮影
- 19:00 懇親会（要申込み）
- ホームページ <https://bugfishes.wordpress.com/>

若手再エネ実践者研究会

「地域×若手×再エネ」をキーワードとし、再生可能エネルギーに関する研究会 / イベントの開催や、書籍の発刊、実践的活動、政策提言等の活動を展開。

地域に関わる再生可能エネルギーの若手実践者により2013年3月21日に結成。研究者をはじめ、事業者、企業、行政（国・県・自治体）、NPO/NGO、学生など幅広い職業から構成されている。これまでも、再生可能エネルギーに関する各種イベントや研究会、書籍の発刊、京都大学内での授業化、フィールド活動などを展開している。若手にあふれる研究会でこれからのエネルギーの未来を形づくる。

〔代表者〕
諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科教授
<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/faculty-members/professor/morotomitoru/>

〔メンバー〕
相川高信 三菱UFJリサーチ & コンサルティング
池本末和 湖南市役所
井筒耕平 村楽エナジー
浦上亜希子 環境省
榎原友樹 E-Konzal
川戸健司 自然電力
木村啓二 自然エネルギー財団
小峯充史 調布未来のエネルギー協会
佐々木健洋 福島県農林連
佐々木裕 小浜温泉エネルギー
山東晃大 小浜温泉エネルギー
京都大学大学院経済学研究科博士課程

佐藤幸司 北都銀行
佐藤季子 自然電力
谷口 彰 おひさま進歩エネルギー
豊田陽介 気候ネットワーク
中山琢夫 京都大学大学院経済学研究科研究員
南原 順 JAG 国際エナジー
真野秀太 SB エナジー
森 大顕 森の仲間たち
安田将人 環境省
山下紀明 ISEP
分山達也 ローカル & エンジニアリング
井上博成 京都大学大学院経済学研究科博士課程



〔連絡先〕 事務局 井上博成（いのうえひろなり） inoue.hironari.35e@st.kyoto-u.ac.jp

〔主な活動場所〕 京都大学 他

〔関連情報〕

若手・再生可能エネルギーネットワーク（facebook）

<https://www.facebook.com/groups/524193631034239/?fref=ts>

<http://ider-project.jp/>

2015年4月25日刊行 「エネルギーの世界を変える。22人の仕事—事業・政策・研究の先駆者たち—」

監修 諸富徹 編著 若手再エネ実践者研究会（学芸出版社）

<http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/ISBN978-4-7615-1350-4.htm>



活動情報

エネカフェ

日時 2014年11月15日（土）
会場 現代文明 Bonjour!（京町家）

〔メンバー〕

諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科教授
安田将人 環境省
井筒耕平 村楽エナジー株式会社 代表取締役
川戸健司 自然電力株式会社 代表取締役
山下紀明 NPO 環境エネルギー政策研究所
南原順株式会社 JAG 国際エナジー
池本末和 滋賀県湖南市役所

ワークショップ概要

京町家にて、「自然エネルギーを仕事にすること」について、各立場から語って頂き、交わるカフェ開催。トークテーマとしては、これまでの活動について、自然エネルギーを仕事にすることについて、1週間のスケジュール等。会場とのセッションを通じて、自然エネルギーを仕事にすることについて語り合うカフェ。

開催報告



エネカフェ Vol.2 地域のエネルギーとコミュニケーションイノベーション

日時 2016年1月30日（土）
17時45分～21時30分
会場 学芸出版社 3階ホール

〔メンバー〕

諸富 徹 京都大学経済学研究科・教授
井上博成 京都大学大学院経済学研究科・修士課程

ワークショップ概要

「エネカフェ Vol.2 地域のエネルギーとコミュニケーションイノベーション」

- 17:45 挨拶・パネリスト紹介
- 18:00 各パネリストより発表
 - ・川人ゆかり（ローカルキャリアカフェ代表）
 - ・磯野久美子（juwi 自然電力オペレーション代表取締役）
 - ・吉高美帆（Community Crossing Japan）
 - ・大津愛梨（O2Farm）
 - ・山東晃大（京都大学/小浜温泉エネルギー）
 - ・荒川あゆみ（Community Organizing Japan 代表）
- 19:00 パネルディスカッション テーマ「エネルギー×コミュニティイノベーション」
- 20:00 懇親会（学芸出版社 4階）



多言語主義と歴史社会言語学

歴史社会言語学についての情報交換を行い、分野の発展に寄与することを目指すグループ

ヨーロッパにおける Historical Sociolinguistics Network (HiSoN) を意識して、2011年頃から、緩やかに連携する形で、研究活動をしています。

〔代表者〕
高田博行 学習院大学教授

〔メンバー〕
渋谷勝己 大阪大学教授
家入葉子 京都大学教授



活動情報

多言語主義と歴史言語学—言語を超えた歴史社会言語学研究

日時 2014年3月11日
会場 京都大学文学研究科第2演習室

ワークショップ概要

さまざまな言語変化を社会とのかかわりの中で分析・理解するため、日本語・英語・ドイツ語を専門とする研究者が言語変化の多様な事例について議論を交わしました。

開催報告

ワークショップで得たもの

2014年のワークショップの内容が、『歴史社会言語学入門—社会から読み解くことばの移り変わり』（高田博行・渋谷勝己・家入葉子編、大修館書店）として出版されました。



生きやすさ応援 実行委員会

固定概念を見直して、持続可能な、生き方と環境を一緒に考えていきませんか？ という集まりです。

現代は多様な属性を持つ人が一緒に生活しています。実態としては多様性を持つ社会でありながら、実際には自分以外の属性が置かれている状況は相互に見えない事も多く、多くの人が生きづらさを抱えたまま孤立してしまうという事が社会問題化しています。このような現状を踏まえ、自分の立ち位置や歴史的文化的に規定され、つくられてきた環境を、あらためて他の地域や人々の生き方や生きづらさに耳を傾けることによって「生きづらさって何？」を考え、縦割りの価値観を超えているんな分野から切り込むことで、新しい価値の創造（あるいは既存の価値からの開放）を目指しています。

〔代表者〕
小山真紀 京都大学大学院 工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット 特定准教授
<http://researchmap.jp/makik/>

〔メンバー〕
王 柳蘭 京都大学白眉センター/
京都大学地域研究統合情報センター 特定准教授
楯谷智子 白眉センター/ウイルス研究所 特定助教
坂本 龍太 京都大学白眉センター/京都大学東南アジア研究所 特定助教
飯塚宜子 同志社大学総合政策科学研究科/NPO 法人平和環境もやいネット事務局長
鈴木咲衣 京都大学白眉センター/京都大学数理解析研究所 特定助教
杉坂恵子 京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター
渡邊皓子 京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター

〔連絡先〕 ikidurasagaku@gmail.com 〔メッセージ〕
〔主な活動場所〕 固定の場所はありません 生きづらさから生きやすさへ。
〔関連情報〕 <http://ikidurasagaku.tumblr.com/> <https://www.facebook.com/ikidurasagaku> その本質に向けて一緒に考えてみませんか。



活動情報

「生きづらさ学」旗揚げワークショップ

日時 2014年12月20日、2015年2月14日
会場 いずれも京都大学白眉センター

〔メンバー〕
小山真紀 京都大学工学研究科・医学研究科安寧の都市ユニット 特定准教授
王 柳蘭 京都大学白眉センター/京都大学地域研究統合情報センター 特定准教授
楯谷智子 白眉センター/ウイルス研究所 特定助教
坂本龍太 京都大学白眉センター/京都大学東南アジア研究所 特定助教
飯塚宜子 同志社大学総合政策科学研究科/NPO 法人平和環境もやいネット事務局長
鈴木咲衣 京都大学白眉センター/京都大学数理解析研究所 特定助教
杉坂恵子 京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター
渡邊皓子 京都大学学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター

ワークショップ概要

現代は多様な属性を持つ人が一緒に生活しています。実態としては多様性を持つ社会でありながら、実際には自分以外の属性が置かれている状況は相互に見えない事も多く、多くの人が生きづらさを抱えたまま孤立してしまうという事が社会問題化しています。このような状況を受け、生きやすい社会づくりに向けて分野不問で研究者が集う、新学問領域「生きづらさ学(ガク)」の確立にむけて、1)「生きづらさ」をテーマとした一般講演会(学問的視点から) 2) 少人数WS(具体的な改善に向けたテーブルディスカッション)を開催します。ワークショップは基本的に二部構成で、いろんな考えや価値観を尊重できる環境で対話できる環境づくり、継続していけるような仕組みづくり、をゆる〜く志向していきます。

開催報告

今後の展望

二部構成のワークショップを継続して実施しつつ、メンバーやワークショップの参加者を中心として、「生きづらさ」が具現化した各種社会問題について多分野チーム(必ずしも全員が関わる必要はなく、問題ごとに関心あるメンバーで取り組む)で具体的に実践・研究にも取り組みたい。実施したワークショップについてはすべて記録を残し、成果公開できる形にしていこうと予定しています。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

「生きづらさ」というテーマを設定する事で、目の前の課題に対応する活動の方に引っ張られるかもしれないの思いもありましたが、二部構成にした事、ディスカッションも語るだけでなく整理まで行う事で、問題の吐き出しに留まらずお互いに客観的視点を持つ事にもつながり、今後の発展が期待できる形が見えてきた事は当初のねらい以上の成果だと感じています。このような機会をありがとうございました。

ワークショップで得たもの

多様な分野(今回は災害科学・フィールド医学・南アジア地域研究・仏教学)から、人の根源的なものとしての生きづらさに関わる概念、具体的な生きづらさとそれを取り巻く環境などについて話題提供いただき、ディスカッションでは我が身にまつわる生きづらさに関わる議論と整理を行うことで、足下の問題から概念的な話題まで議論できるような場ができていた点、参加者との新しい出会いとつながりなど。



医食文化同源プロジェクト

医療・健康の様々な課題について、多分野で連携して解決する活動を行っています。

医療現場や地域を舞台に、疾病予防や健康増進活動に取り組みながら、併せて、より良質な安全な医療の供給という社会の要請に応えるための取り組みを行っています。福祉、行政、学術機関など様々な方面との共同事業にも積極的に取り組んでいます。

- 【代表者】
福間真悟 京都大学病院 臨床研究総合センター 特定講師
(関連 URL) <http://www.healthcare-epikyoto-u.jp/faculty/>
- 【メンバー】
安田 真 京都暮らしの RE デザイン研究所 代表
藤原辰史 京都大学人文科学研究所 准教授
平松紘実 料理・科学ライター
佐々木彰 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 博士後期課程
飯田英和 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
西脇宏樹 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
小林 奏 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
新畑覚也 福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 臨床研究フェロー
矢嶋宣幸 福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 臨床研究フェロー

【連絡先】住所 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町 電話番号 075-753-4646
【主な活動場所】医療現場、地域など
【関連情報】(ホームページ) <http://www.healthcare-epikyoto-u.jp/index.php>



《メッセージ》
医療の枠にとらわれず、地域住民の皆さんを元気にするための活動に取り組んでいます。具体的には、食と健康をキーワードに、文化や科学など様々な角度から考えてみるワークショップなどを行っています。興味がある方は、お声がけください。

活動情報

からだに美味しいおにぎりを識る

日時 2014年12月13日
会場 KYOCA 3F

- 【メンバー】
福間真悟 京都大学病院 臨床研究総合センター 特定講師
藤原辰史 京都大学人文科学研究所 准教授
平松紘実 料理研究家
安田 真 京都・暮らしの RE デザイン研究所 代表
佐々木彰 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 博士後期課程
飯田英和 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
西脇宏樹 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
小林 奏 京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 専門職学位課程
新畑覚也 福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 臨床研究フェロー
矢嶋宣幸 福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 臨床研究フェロー

ワークショップ概要

日本において伝統的かつ庶民に愛される食べ物である「おにぎり」を切り口に、文化(一汁一菜など日本人の伝統的な食のスタイル、祭りや芸能など地域文化、伝統文化との関わり合い)・科学(それぞれの種類の違いや組み合わせ、握り方、分量の加減が味にどう影響するのかなど)・医学(米や塩と健康との関わり、日本人の体質など)の視点からグループディスカッションを行った。また、ディスカッションの間におにぎりのテイastingと専門家によるミニレクチャー(藤原辰史:京都大学人文科学研究所准教授、平松紘実:料理研究家、京都大学農学研究科修士課程修了)をさみ、その後のグループディスカッションでさらに深い議論への発展のきっかけとした。現在、ワークショップの効果を科学的に検証するため、ワークショップ後の参加者を追跡し、味覚や健康行動の変化を測定している。

開催報告

今後の展望

- ・京都を中心にワークショップを継続し、よりよいワークショップのモデルをつくる。
- ・京都以外の地域でも開催し、異なる地域性にも対応できるモデルとする。
- ・地域全体でボランティアスタッフなどにより自立的にワークショップを継続開催できるシステムをつくり、地域住民の行動変容(社会参加やその他の交流の増加など)をきっかけとする。行動変容により住民を元気にする。結果として、地域を活性化する。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

皆さんがカラダや健康について気付くための機会を提供したいと思っています。より多角的に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします!

ワークショップで得たもの

事前の想定以上に、グループ毎のディスカッションの内容が多様であり、それらを全体で共有することで、より深い理解につながった。



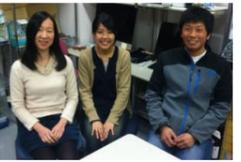
勇魚会 (海棲哺乳類の会)

勇魚会は、海棲哺乳類に関わる研究員、学生および水族館職員らで構成される非営利団体です。

勇魚会は、海棲哺乳類に関わる研究員、学生および水族館職員らで構成される非営利団体です。海棲哺乳類に関心のある人々、または関係機関などと相互の連絡を図りながら、研究発表や技術・知識の交換による情報の共有、および研究活動の育成・発展を目的としています。年に1度、独自のテーマを設定した研究会を開催しており、ここ数年は200名を超える参加があります。研究者や水族館職員から、海棲哺乳類好きな一般の方まで、幅広い分野からの参加者が所属・身分にとらわれず自由かつ学際的な議論を行うことができる点が特徴です。

- 【代表者】
幸島吉郎 京都大学野生動物研究センター・センター長
- 【メンバー】
水口大輔 京都大学野生動物研究センター・博士課程
勇魚会(海棲哺乳類の会※)・事務局員
神田幸司 名古屋港水族館、
勇魚会(海棲哺乳類の会)・副会長
吉田弥生 勇魚会(海棲哺乳類の会)・副会長
中束明佳 勇魚会(海棲哺乳類の会)・会長

【連絡先】isanaoffice@gmail.com
【主な活動場所】東京、京都、北海道、長崎など



活動情報

ひれあしワークショップ in 京都 ~野外と飼育の現場をつなぐ~

日時 2014年11月30日
会場 京都大学 総合研究8号館 3階 NSホール、および 理学研究科セミナーハウス

- 【メンバー】
小林万里 東京農業大学・教授
郡山尚紀 酪農学園大学・准教授
鈴木美和 日本大学・准教授
川本 守 小樽水族館
遠山忠晃 あわしまマリンパーク
芦刈治将 すみだ水族館
池光愛美 京都水族館
米崎史郎 国際水産資源研究所・主任研究員
- 鈴木一平 東京大学大気海洋研究所・特任研究員
木下こづえ 京都大学霊長類研究所・助教
水口大輔 京都大学野生動物研究センター・博士課程
勇魚会(海棲哺乳類の会※)・事務局員
神田幸司 名古屋港水族館、
勇魚会(海棲哺乳類の会)・副会長
吉田弥生 勇魚会(海棲哺乳類の会)・副会長
中束明佳 勇魚会(海棲哺乳類の会)・会長

ワークショップ概要

鰭脚類(アシカ・アザラシ・セイウチなど)は、四本の脚がひれ状に変化し水中生に適應した海棲哺乳類の一群である。水中での採餌や氷上での繁殖といった特殊な生活様式により、行動観察をはじめとした基礎的な研究には困難を伴う場合が多い。

水族館は、野外では観察の難しい鰭脚類について、継続的な行動のモニタリングや血液・尿・糞などの生体試料の採取が可能である。したがって、繁殖・行動・栄養状態の把握など、生物学的な基礎研究を行う上で絶好の場である。しかしながら、飼育下の鰭脚類において、このような研究が行われる例は非常に少ない。そこで、研究者と水族館職員とが一堂に会し、双方が情報共有を行うためのワークショップを開催した。鰭脚類の野外研究と飼育それぞれの現場の第一線で活動しているメンバーを講演者として招き、それぞれの活動紹介および問題点の整理を行った。

開催報告



科学と芸術の交差展

京都大学の学生を中心とした科学者の卵と、京都造形芸術大学の学生を中心とした芸術家の卵の集まりです。

科学と芸術が出会ったらどうなるの・・・？
という問いをテーマに、複数回のディス
カッションに基づいた作品展を年に1回
行っている。

- [代表者]
- | | |
|------|----------------------|
| 奥田俊介 | 京都大学・人間・環境学研究所 |
| 渡辺 駿 | 京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科 |
| 東 純平 | 大阪大学・生命機能研究科 |
- [メンバー]
- | | |
|------|---------------------|
| 森下 茅 | 京都造形芸術大学・油画 |
| 神谷真千 | 京都造形芸術大学・日本画 |
| 藤井 遥 | 京都造形芸術大学・日本画 |
| 黒川達矢 | 京都大学・理学研究科 |
| 福富雄一 | 京都大学・理学研究科 |
| 村山 知 | 京都大学・薬学研究科 |
| 牧功一郎 | 京都大学・工学研究科（再生医学研究所） |
| 乾榮里子 | 京都造形芸術大学・日本画 |
| 佐貫絢郁 | 京都造形芸術大学・日本画 |



[主な活動場所] カフェや図書館、博物館など
[関連情報] <https://www.facebook.com/groups/1582492445316050/>

【メッセージ】
ぜひ展覧会にきてください。

活動情報

科学と芸術の交差展

日時 2014年3月22日～30日
会場 京都大学附属博物館



ワークショップ概要

科学者と芸術家がペアを組み、それぞれの研究・制作テーマの共通点・相違点を探りながら作り上げた作品展。

開催報告

今後の展望

年一回程度、作品展を行う。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

本ワークショップがなければ出会えなかった人達と本当につながれた。

ワークショップで得たもの

高等教育における、科学を俯瞰する視点の育成
異分野同士のつながりでこそ生まれる、新たな分野へのチャレンジ精神
(休みの日に誰かの家に集まって実験をしたりしている)

科学と芸術の交差展「生命」

日時 2015年3月18日～29日
会場 京都大学附属博物館

[メンバー]

- | | | | |
|------|----------------------|------|---------------------|
| 奥田俊介 | 京都大学・人間・環境学研究所 | 黒川達矢 | 京都大学・理学研究科 |
| 渡辺 駿 | 京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科 | 福富雄一 | 京都大学・理学研究科 |
| 東 純平 | 大阪大学・生命機能研究科 | 村山 知 | 京都大学・薬学研究科 |
| 森下 茅 | 京都造形芸術大学・油画 | 牧功一郎 | 京都大学・工学研究科（再生医学研究所） |
| 神谷真千 | 京都造形芸術大学・日本画 | 乾榮里子 | 京都造形芸術大学・日本画 |
| 藤井 遥 | 京都造形芸術大学・日本画 | 佐貫絢郁 | 京都造形芸術大学・日本画 |

ワークショップ概要

科学と芸術、それぞれの視点から「生命」を捉え、相互のディスカッションに基づき作り上げた作品展。

科学コミュニケーションツール研究会

科学技術と社会の問題に取り組めるゲーミング教材や手法を創り出したいと考えています

健康日本 21 などの生活習慣病予防への取り組みや、科学的知見に基づく健康指導があります。しかし、現実には食生活、運動、睡眠など日々の生活習慣は、科学的知識や合理的選択に基づかず、仕事や家庭、友人などの人間関係や社会的ジレンマのなかで「何とか」「やりくり」されています。「分かっているけど、やめられない」「それができたら苦労はしない」「何とかなってるからいいじゃない」。その「やりくり」に潜む価値観の違いや個人的なこだわりを、議論する場はあるでしょうか。 NPO 法人市民科学研究所の科学コミュニケーションツール研究会は、生活習慣の改善という「正解の見えている結果へ近づける」方法ではなく、「いかに人々が日常生活をやりくりしているか」というジレンマ状況に着目した新しいアプローチを考えてみたいと思い、生活習慣のジレンマ(板ばさみ)について話し合うための対面型交渉ゲーム、「ネゴシエート・バトル」を開発しました。

- [代表者]
- | | |
|------|---|
| 上田昌文 | NPO 法人市民科学研究所・代表理事
HP: http://www.shiminkagaku.org/ |
|------|---|

[メンバー]

- | | |
|-------|--------------------|
| 上田昌文 | NPO 法人市民科学研究所・代表理事 |
| 江間有沙 | 京都大学白眉センター・特定助教 |
| 菱山玲子 | 早稲田大学理工学術院・准教授 |
| 日比野愛子 | 弘前大学人文学部・講師 |

[連絡先] 江間有沙・京都大学白眉センター

[主な活動場所] NPO 法人市民科学研究所（東京都文京区）
<http://www.shiminkagaku.org/map.html>
[関連情報] NPO 法人市民科学研究所 HP: <http://www.shiminkagaku.org/>
NPO 法人市民科学研究所 Facebook: <https://www.facebook.com/shiminkagaku>
ネゴシエート・バトル HP: <http://negobato.hotcom-web.com/wordpress/>

【メッセージ】

「たのしみながら学ぶ」だけではなく「問題の複雑さを複雑なまま疑似体験する」などゲームの教材になりそうなものは、科学・技術・社会の間に色々と転がっていると思います。健康指導や生活習慣予防のためのゲーミング教材を使うことで、一方向の指導や教育ではない双方向の議論や学びが生じるのではないかと考えています。



活動情報

生活習慣やりくり研究ワークショップ

日時 2014年3月3日
会場 吉田泉殿

[メンバー]

- | | |
|-------|--------------------|
| 上田昌文 | NPO 法人市民科学研究所・代表理事 |
| 江間有沙 | 京都大学白眉センター・特定助教 |
| 菱山玲子 | 早稲田大学理工学術院・准教授 |
| 日比野愛子 | 弘前大学人文学部・講師 |

ワークショップ概要

本ワークショップでは、生活習慣のジレンマの議論をするための対面型交渉ゲーム、ネゴシエート・バトルを紹介しました。このゲームでは、仕事と健康のジレンマ状況をめぐって、複数のプレイヤー同士で、相手を健康ではなく不健康にする行動への誘惑への攻防を展開します。あえて、常識に矛盾するようなテーマを設定することで、「生活習慣やりくり」研究に対する新しいアプローチを考えます。

開催報告

今後の展望

ネゴバトを企業での健康研修や、医学・看護学生での教育現場で利用いただくために、普及活動を行っています。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

このゲームをやっているとき毎回印象的なのは、笑い声が絶えないことです。悩ましいジレンマ状況に対して「えーっ!？」と声をあげながらも、ステレオタイプな頑固者の上司を仮定したり、あるいは自分自身の経験を引き合いに出したりしながら、楽しそうに、でもみなさん真剣にジレンマ状況に対して、受け入れるか受け入れないかを議論されていました。ネゴバトを教育あるいは研究で利用されたい方は、ご一報ください!

ワークショップで得たもの

大学に勤務されている医療関係者の方々(生活習慣や遺伝、看護の研究者)や公共政策、コミュニケーション研究者に参加いただきました。ゲーム後のディスカッションでは、こんなジレンマもあるよというご自身の体験に根差した意見や、ゲームの設定についてのアイデア、医学的観点からの知見などをいただきました。



Acceptable Intelligence with Responsibility (AIR): 人工知能が浸透する社会を考える

人工知能の社会実装の流れが加速するなか、今後生じるだろう課題や制度設計について、人工知能研究者と人文・社会科学研究者が新しい価値観の創出を目指し対話を行っています。

人工知能技術は社会への浸透を急速に深めていく様相を呈しています。GoogleGlass等のウェアラブルデバイスが普及に向けた第一歩を踏み出し、自律的に走行・飛行するロボットカーやマルチコプターが続々登場し、またエンターテインメントの分野でもWatsonが人間を超える能力を示し、卓越した囲碁プレイヤーも生み出されようとしています。このような社会状況、技術動向からも、様々な知能技術と社会の関係について改めて考えざるを得ない状況になってきています。本ネットワークは、人工知能と社会の相互作用や社会像について議論することを目的とした分野横断的な組織であり、学内外の人工知能研究者と人文・社会科学研究者の対話のプラットフォームを提供することを目指しています。

〔代表者〕
秋谷直矩 京都大学・物質一細胞統合システム拠点
江間有沙 京都大学・白眉センター
服部宏充 立命館大学・情報理工学部

〔メンバー〕
秋谷直矩 京都大学・物質一細胞統合システム拠点
市瀬龍太郎 国立情報学研究所
江間有沙 京都大学・白眉センター
大澤博隆 筑波大学・システム情報系
大家慎也 神戸大学・人文学研究科
神崎宣次 滋賀大学・教育学部
久木田水生 名古屋大学大学院・情報科学研究科
田中幹人 早稲田大学・政治経済学術院
服部宏充 立命館大学・情報理工学部
本田康二郎 金沢医科大学・一般教育機構
宮野公樹 京都大学・学際融合教育研究推進センター
八代嘉美 京都大学・iPS細胞研究所
山下倫央 産業技術総合研究所・サービス工学研究センター (五十音順)



〔主な活動場所〕 不特定 (主に京都大学キャンパス内)
〔関連情報〕 研究グループのホームページ <http://web4ais.wpblog.jp/>

活動情報

人工知能技術が浸透する社会

日時 2014年9月12日
会場 京都大学iCeMS 本館 2階

〔メンバー〕
秋谷直矩 京都大学・物質一細胞統合システム拠点
市瀬龍太郎 国立情報学研究所
江間有沙 京都大学・白眉センター
大澤博隆 筑波大学・システム情報系

ワークショップ概要

本企画では人工知能技術と社会について、多様な立場の方々からの意見を集め、知能技術が社会的な受容性を得るためにどのような事に留意すべきか、人間・AI融合時代の社会の制度や倫理等のテーマについて議論するネットワークを生成する。すでに人工知能学会研究者・応用哲学/倫理研究者・社会学系研究者数名のネットワークは形成されている。そのネットワークを継続させ、さらに拡大していくことを目的として、今年度中に3回の「人工知能技術が浸透する社会」を考える異分野融合ワークショップ/シンポジウムを開催する。メーリングリストやHPを作成し、企画ごとにコアメンバーを増やしていく予定である。

第1回は当問題意識についての、専門家がない現在、まずは現状を把握するために、AI研究の共通アジェンダとは何なのか、またAI研究者が社会との接点についてどのように考えているのか、あるいは考えてこなかったのかについて議論する。そのため、AI研究者と非AI研究者(社会学や倫理学など)の小グループでワークショップを行う。

開催報告

ワークショップで得たもの

第1回は人工知能研究者4名と、応用倫理・哲学者5名、そして科学技術コミュニケーションの研究者3名が集まり、人間と人工知能が融合する近未来の社会的課題について考えることの重要性と、それに対する知恵を議論するための知のネットワークを形成したいという、このワークショップの目的が共有されました。2014年11月には「科学技術社会論学会」にて第2回ワークショップを、さらに2015年2月には京都大学白眉センターにて第3回ワークショップを開催するなど、支援を受けた2014年9月の第1回立ち上げワークショップをきっかけとして、人的ネットワークが形成されました。

今後の展望

2015年度にはメンバー各々の所属学会において、共同でワークショップやOSを企画するなど、人口知能と社会について考える一拠点としての役割を担いたいと考えています。

ワークショップを開催しての感想・メッセージ

人口知能について、研究者がどのような共通アジェンダを持っているか、どのような社会課題に直面しているかなどに関しては、多数な意見が展開されました。時には意見が対立し、まだ埋められないギャップがあるということも再確認されました。しかし、一方で対話を通して、新しい技術設計や倫理基準、価値観を今、このタイミングで講演を通して構築していく必要があるとの意見は一致し、今後もこの「知のネットワーク」を継続していくための礎となったワークショップでした。



匂いメディア研究集団

匂いコミュニケーションメディアの構築と社会環境の醸成をめざすため、情報学、工学、天文学、量子力学、生物学、美学の研究者が、その可能性をさぐっている。

視覚・聴覚に次ぐ、来るべき「匂いコミュニケーションメディア」の構築と、社会環境の醸成をめざす集団。

〔代表者〕
小石かつら 京都大学白眉センター 特定助教

〔メンバー〕
塩尻かおり 京都大学白眉センター 特定助教
村主崇行 理化学研究所 特別研究員
末永幸平 京都大学情報学研究所 准教授
藤井啓祐 京都大学白眉センター 特定助教
江間有沙 京都大学白眉センター 特定助教

〔主な活動場所〕 主に京都大学内



活動情報

匂い・脳科学・機械学習の接点 (第1回ワークショップ)

日時 2014年9月18日(木) 会場 京都大学吉田泉殿

ワークショップ概要

13:00 ~ 趣旨説明
13:40 ~ 招待講演 大阪バイオサイエンス研究所 神経機能学部門 小早川 高 研究員(脳科学)
「匂いが誘発する多様な情動や行動」
14:40 ~ 招待講演 京都大学 情報学研究所 システム科学専攻 大関真之 助教(物理学・情報学)
「匂いを嗅ぎ分ける? 圧縮センシング技術」
15:30 ~ ディスカッション



匂い再現デバイスの展望 (第2回ワークショップ)

日時 2015年2月23日(月) 会場 京都大学白眉センター2階

ワークショップ概要

13:00 ~ 趣旨説明
13:20 ~ 招待講演 静岡大学 大学院情報学研究所 猿渡俊介 助教(センサーネットワーク)
「センサネットワークのインパクト~IoTとビッグデータの本質的な違いは何か? ~」
14:05 ~ 招待講演 Scentee 株式会社 坪内弘毅 代表取締役
「世界初のスマホで香りのプロダクト開発からH/W系の香りスタートアップのグローバルでのビジネス成長について」
14:50 ~ 招待講演 東京工業大学 精密工学研究所 中本高道 教授(知覚情報処理)
「ヒューマン嗅覚インターフェース」
15:40 ~ ディスカッション



匂いコミュニケーションメディア—社会環境の醸成をめざして— (第3回ワークショップ)

日時 2015年3月23日(月) 会場 京都大学 白眉センター2階

ワークショップ概要

13:00 ~ 趣旨説明
13:30 ~ 招待講演 京都大学総合博物館 塩瀬隆之 准教授(コミュニケーションデザイン/インクルーシブデザイン)
「『におい産業』創出のための権利保護と政策的課題」
14:30 ~ 招待講演 京都大学白眉センター/法学研究科 樋口敏広 特定助教(環境史/科学技術史)
「『香り』が『公害』になる時: 匂いの環境史からの視座」
15:30 ~ ディスカッション



京都大学 分野横断プラットフォーム構築事業
(研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラム)

成果報告書 NO.1 2017年5月

発行 京都大学 学術研究支援室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-5108
URL <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学 学際融合教育研究推進センター
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-5338
URL <http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/>



本冊子のプロジェクトは下記サイトでも閲覧可能です。

K.U.RESEARCH「参加できる研究」

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp>